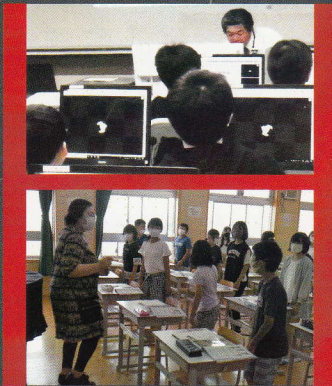


令和4年度 第17回小中一貫教育全国サミットin飯塚

# 「社会を生き抜く力の根っこ」を育てる小中一貫教育の創造

～ 穂波東校「9年間の教育活動プラン」を通して～

プログラミング学習／  
音楽チャレンジ授業



小中合同表彰

中学校／  
小学校  
穂波東校授業スタンダード



小中合同授業



づくり研修会

クールタイム(異学年交流:英語)



九九ボランティア



令和4年11月4日

飯塚市立小中一貫校 穂波東校

## はじめに

小中一貫教育全国サミットが本市で開催され、全国各地からお越しいただいた多くの教育関係者の皆様に、本校の小中一貫教育の取組や成果を発表する機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

本校は平成 29 年度の楽市小学校と平恒小学校の統合による穂波東小学校の設立を経て、平成 30 年度に穂波東小学校と穂波東中学校による小中一貫校穂波東校として新たに開校しました。そして開校以来、本校の小学部、中学部共通の教育目標である「社会を生き抜く力の根っこを育てる」の実現に向け、本校における小中一貫教育のグランドデザインである「穂波東校『9年間の教育活動プラン』」に基づき、小学部と中学部が協働して様々な組織運営や教育活動を創り上げてきました。この間、開校から5年目を迎える今日までの道のりは、決して平坦なものではありませんでしたが、本校小学部と中学部の職員は、これから先何十年と続く小中一貫校穂波東校の土台を創る者としての強い使命感を持って、互いに知恵を出し合い、力を合わせ、現在の穂波東校を創り上げてきました。その一端をこの度の本校における授業公開・実践報告にて皆様へ発表させていただきます。

授業公開では、「教師主導の『教え込む授業』から児童生徒が主体となる『学びとる授業』への授業改善」等を目指し、福岡教育大学 教育学部 教授 鈴木 邦治 氏のご指導の下、令和 2 年度より実証的に研究を続けてきました「穂波東校授業スタンダード」に基づいた授業を公開致します。

実践報告では、本研究紀要に記載しております内容（本校の小中一貫教育における組織運営や教育活動の実際等）について、プレゼンテーションを使い、画像や動画等を交えながら報告させていただきます。

この他に、授業公開・実践報告に関連する資料として、「開校から現在までの小中一貫校穂波東校創りの歩み」を綴った「穂波東校小中一貫教育だより」等を本校の HP に掲載致しました。

これらの本校の研究発表に対し、皆様より忌憚のないご意見やご助言を賜うことができれば、大変有り難く存じます。今後の本校の更なる充実・発展に繋げてまいりますので、何卒宜しくお願い致します。

最後に、本小中一貫教育全国サミットにおける本校の研究発表に際し、多大なるご支援、ご協力を賜りました多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、結びの言葉と致します。

令和 4 年 11 月 4 日

飯塚市立小中一貫校穂波東校  
代表校長（中学部校長） 山本健志

# 第17回小中一貫教育全国サミット in 飯塚

## 小中一貫校穂波東校 授業公開・実践報告 要項

- 1 開催日 令和4年11月4日（金）
- 2 研究テーマ 「社会を生き抜く力の根っこ」を育てる小中一貫教育の創造  
～穂波東校「9年間の教育活動プラン」を通して～

### 3 日程 13:30～16:30

13:30～	移	14:05～	移	15:10～	15:45～
公開授業 ガイダンス (大アリーナ)	動	授業公開 (各教室)	動	実践報告 (大アリーナ)	講評・指導助言 (大アリーナ)

### 4 公開授業ガイダンス

小学部 研究主任 岩倉 麻子  
中学部 研究主任 平尾 智美

### 5 全体会

#### (1) 挨拶

代表校長 中学部校長 山本 健志

#### (2) 実践報告

小学部 主幹教諭 篠崎 寛之  
中学部 主幹教諭 高峰 寛

#### (3) 講評・指導助言

福岡教育大学 教育学部 教授 鈴木 邦治 氏

【講評・指導助言】

福岡教育大学 教育学部 教授 鈴木 邦治 氏

A series of horizontal dashed lines for writing, starting below the text and extending to the bottom of the page.

# 目 次

## はじめに

### I 穂波東校：小中一貫教育【理論編】

- 1 穂波東校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - (1) 沿革・構成・組織
  - (2) 学校教育目標
- 2 穂波東校が目指す小中一貫教育・・・・・・・・・・ 2
  - (1) 穂波東校が目指す小中一貫教育
  - (2) 穂波東校の小中一貫教育の理念
    - ① 小中一貫教育の視点
    - ② 小中一貫教育の手法
    - ③ 穂波東校が目指す児童生徒像・教師像
  - (3) 穂波東校の「小中一貫教育の具体的な取組」とその要点
    - ① 「教育活動づくり」の取組・要点
    - ② 「学校運営づくり」の取組・要点

### II 穂波東校：学校運営の実際【実践編】

- 1 穂波東校の小中一貫教育に係る組織・・・・・・・・ 7
  - (1) 穂波東校小中経営部会
  - (2) 穂波東校校務分掌組織
  - (3) 穂波東校小中合同研究会
- 2 穂波東校の小中一貫教育に係る運営・・・・・・・・ 8
  - (1) 小学部・中学部学校行事
  - (2) 穂波東校の校時

### III 穂波東校：教育活動の実際【実践編】

- 1 異学年交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
  - (1) C-L Time（異学年交流学習）
  - (2) かけ算九九ボランティア
  - (3) 平和学習の折り鶴づくり
  - (4) 小中合同表彰式
  - (5) 小学生と美術部員によるオブジェづくり
- 2 チャレンジ授業（出前授業）・・・・・・・・・・・・ 14
- 3 未来志向の授業づくり（英語教育・プログラミング教育・ICT教育）  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

### IV 穂波東校：小中一貫教育9年間活動プランの実際【実践編】

- 1 穂波東校：小中一貫教育9年間活動プランの取組・・・・・・・・ 18
  - (1) 飯塚市：小中一貫教育9年間活動プラン
  - (2) 穂波東校：「9年間プラン」
  - (3) 「小中重点課題」の解決に向けた組織づくり
  - (4) 穂波東校：「9年間プラン」の取組：成果と課題
  - (5) 穂波東校：令和4年度「9年間プラン」

## V 穂波東校：公開授業関連資料

- 1 穂波東校授業スタンダード・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
  - (1) ねらい
  - (2) 概要
  - (3) 区分ごとの目標と取組
  - (4) 実際
- 2 穂波東校授業スタンダードに基づく各小中一貫教育活動・・・・・・・・ 26
  - (1) 協調学習（知識構成型ジグソー法）
  - (2) プログラミング教育
  - (3) ICT 教育
  - (4) 英語教育
  - (5) 異学年交流学习（穂波東校 C-L Time）
  - (6) キャリア教育（『スチューデント・シティ』『ファイナンス・パーク』）

## 参加参考文献

## モデル授業指導演

- 異学年交流による英語教育（C-L Time）
- キャリア教育『スチューデント・シティ』
- 穂波東校授業スタンダード
- プログラミング教育
- 協調学習（知識構成型ジグソー法）

## 巻末資料

- 学習の進め方（低学年・中学年・中期・後期）
- 学習規律（小・中学部）
- 穂波東校 chrome book 活用年間実践プラン
- 穂波東校 パソコンのきまり
- 「チャレンジ授業」実施計画
- 「かけ算九九ボランティア」実施計画
- 穂波東校アクション3
- 穂波東校引継ぎシート
- 遊びマップ
- 関連資料の紹介
  - ・ 小中一貫教育のすゝめ
  - ・ 穂波東校小中一貫だより

## 令和2年度・令和3年度・令和4年度研究同人（教職員一覧）

## おわりに



# I 穂波東校：小中一貫教育【理論編】

## 1 穂波東校の概要

### (1) 沿革・構成・組織

本校は平成 29 年度の楽市小学校と平恒小学校の統合による穂波東小学校の設立を経て、平成 30 年度に穂波東小学校と穂波東中学校による「飯塚市立小中一貫校穂波東校」として開校した。

本校の小中一貫校としての形態は、いわゆる施設一体型小中一貫校であり、同一校舎内にある小学校と中学校が一体的に教育活動を行う学校である。本校では小・中学校のまとまりをそれぞれ小学部、中学部と呼んでいる。現在、小学部は 24 学級、児童数 626 人、中学部は 11 学級、316 人であり、全児童生徒と全職員では 1000 人を超える規模となる。

小中一貫校としての学年区分は、飯塚市の教育施策に基づき、1 年生から 9 年生までを前期（1 年生から 4 年生）、中期（5 年生から 7 年生）、後期（8 年生から 9 年生）の 3 期に区分した、所謂、4－3－2 制である。

本校の学校運営は、小学部・中学部それぞれに学校長が配置されており、言わば、2 人の学校長の共同経営による学校運営を行っている。この 2 人の学校長については、どちらかの学校長が市教育委員会より代表校長として任命されており、小中一貫教育に関する最終決裁権を有する。また、円滑な共同経営の実現に向け、1～2 週間毎に小中合同経営部（構成は小中の学校長、教頭、主幹教諭）による運営会議を実施している。

校務分掌組織は、小中共通に教務部・研修部・生徒指導部・健康教育部・事務部の 5 部会で構成されており、これにより小中の協働体制の推進を図っている。また、研究組織は、小中の全教職員から成る小中合同研究部会が組織され、小中共通の教育課題の解決に向け、研究と実践に取り組んでいる。

### (2) 学校教育目標

本校（小中共通）の学校教育目標は「社会を生き抜く力の根っこを育てる」である。

この「社会を生き抜く力の根っこ」とは、変化の激しい社会の中でも逞しく生きていくための基盤となる資質・能力のことである。穂波東校では、「社会を生き抜く力の根っこを育てる」を小学部・中学部共通の目標として掲げ、穂波東校 9 年間の教育活動を通じて、組織的・計画的に目標達成に向けて取り組んでいる。

---

## 穂波東校教育目標

小中共通テーマ：「社会を生き抜く力の根っこを育てる」

小学部サブテーマ：～ やさしく・かしこく・たくましい児童の育成 ～

中学部サブテーマ：～ 自己や社会の未来を前向きに創造する生徒の育成 ～

---



## 2 穂波東校が目指す小中一貫教育

### (1) 穂波東校が目指す小中一貫教育

小中一貫教育とは、「同じ中学校区の小学校と中学校が、校区の子どもたちの学びや育ちについて、共通の課題意識や教育目標を共有し、連携・協働しながら一層確実にその課題解決や目標達成を図ることを目指した教育」であり、「同じ中学校区の教職員が、校区の子どもたちの学力・体力・豊かな心などについてその実態を互いに交流し合い、そこから明らかになる課題や設定された目標の解決・達成に向かって、組織的・計画的に取り組む教育」であると考えます。

このような考え方にに基づき、穂波東校が目指す小中一貫教育は、次の通りである。

#### 穂波東校が目指す小中一貫教育

小学部・中学部それぞれの充実した教育活動を土台とし、義務教育9カ年を通して、小・中が協働して、小・中共通の教育目標の達成に向け組織的・計画的に取り組む教育。

### (2) 穂波東校の小中一貫教育の理念

穂波東校の小中一貫教育の理念は、「小中一貫教育にはその視点と手法に良さがあり、それを日々の教育活動で活かしていく」である。本校が考える「小中一貫教育の視点と手法」とは次の通りである。

#### ① 「小中一貫教育の視点」

小中一貫教育の視点とは、子どもたちの学びや育ちを連続的に捉える視点である。この視点で日々の教育活動を見つめ、改善を図ることで、義務教育9年間の中で学年が上がっても、子どもたちがギャップを感じることなく、これまでの学びを土台として、着実に育っていく教育の実現に迫ることができると思う。言い換えると、小中一貫教育の視点とは、学びの主体である子どもの側に立った、子どもたちの学びの過去・現在・未来を繋ぐための視点であると思う。

#### ② 「小中一貫教育の手法」

小中一貫教育の主な手法として、小中の教職員による連携・協働や、小中の児童生徒による異学年交流等がある。

まず、小中の教職員による連携・協働を通して、義務教育終了時の目指す姿に向かって子どもたちを段階的に育てることができる。また、小中それぞれが持つ知識・経験・技術等が交わることで、教育内容に広がりや深まりが生まれる。

次に、小中の児童生徒による異学年交流の中で、生徒は児童に教えたり、手助けしたりすることで、自らの成長を自覚し、自己有用感や自尊感情を高める。更には、児童は生徒からの指導や支援を受けることで、個々にその能力・資質が伸びるとともに、生徒の姿からモデル像を形成することができる。

### ③ 穂波東校が目指す児童生徒像・教師像

穂波東校では、前述した「穂波東校が目指す小中一貫教育」の実現に向け、児童生徒並びに小中の教師は、互いに伝え合い、協働し、新たなことを創り出す活動を行う。この営みは、互いの違い、互いの良さを受け入れながら、コミュニケーション、コラボレーションを行い、そこから更にイノベーションへと繋がる取組である。このような取組を通して穂波東校は次のような児童生徒像並びに教師像の育成をねらいとしている。

#### 穂波東校が小中一貫教育を通して目指す児童生徒像

上級生は下級生の手本となり、下級生は上級生を手本とし、互いに係わり合い、学び合い、高め合う児童生徒。

#### 穂波東校が小中一貫教育を通して目指す教師像

小学部・中学部の互いの違いや良さを認め合い、学び合い、協力し合って9年間の連続した児童生徒の確かな成長に資することができる教師。

### (3) 穂波東校の「小中一貫教育の具体的な取組」とその要点

穂波東校では、前述した「穂波東校が目指す小中一貫教育」の実現に向け、主に「教育活動づくり」「学校運営づくり」「校内環境づくり」の3つの柱で具体的な取組を積み上げている。

#### 穂波東校における小中一貫教育の具体的な取組の一例

##### 教育活動づくり

- 「9年間活動プラン」に基づく教育活動
- 児童が中学部エリアに出向いて授業を受ける「チャレンジ授業」
- 中学部の生徒が先生役となり小学部の児童に学習の支援等を行う「Co-Learning Time」等の異学年交流

##### 学校運営づくり

- 穂波東校小中経営部会の定期的な実施
- 小中一体化した穂波東校校務分掌組織の編成・機能化
- 穂波東校小中合同研究会の定期的な実施
- 穂波東校学習内容系統表、穂波東校9年間キャリア教育指導計画等、基本構想の策定

### 校内環境づくり

- 施設一体型校舎の機能的活用
- 共通エリアでの児童生徒の作品、部活動の表彰物（優勝旗や賞状等）の展示
- 全エリアでの英語の掲示物の提示

この「穂波東校における小中一貫教育の具体的な取組」において、穂波東校では次のようなことを要点としている。

## ① 「教育活動づくり」の取組・要点

### ア 異学年交流

児童と生徒など学年の異なる子どもたちが相互に交流し、学び合う異学年交流は、児童と生徒が互いに学び合い、高め合う活動である。

その形態は次のように分類することができる。

- 文化発表会等の学校行事を小中合同で行う異学年交流（小中合同行事）。
- 生徒が先生役となり児童に学習の支援等を行う異学年交流（「折り鶴づくり先生」「英会話先生」「かけ算九九先生」等）

このような異学年交流活動の実施に当たっては、活動内容に加え、児童と生徒の役割を小中間でしっかりと確認をしておくことが大切である。

### イ チャレンジ授業（出前授業）

小中の教職員はそれぞれに専門性や特色を有しており、そのことを活かして小の教職員が生徒に、中の教職員が児童に対して授業を行うことで、通常の授業にはない教育効果を得ることができる。

穂波東校では、児童が中学部エリアに出向いて行う出前授業を実施しており、これをチャレンジ授業と呼んでいる。この授業では、工夫次第でその有効性を更に高めることができる。例えば、小学校の運動会の練習期間に、中学部の体育科の教職員による「走り方やバトン・パス」の出前授業を行うこと等は、小学部側からのニーズも高く、その有効性を高めることができる。また、小学部の高学年が中学部側に出向くチャレンジ授業をすることで、児童たちに中学校に進級して学ぶことをより強く実感させることができる。

## ② 「学校運営づくり」の取組・要点

### ア 小中共通の教育目標・重点課題の設定

小中共通の教育目標・重点課題を設定することは、小中の教職員による協働体制を構築する上で、絶対に必要なことである。

小中共通の教育目標は、児童生徒の実態を考慮する等、一般的な「学校の教育目標の設定における要点」を踏まえつつ、「義務教育修了時における目指す子ども像」

を想定しながら設定する。

小中共通の教育目標は、「義務教育修了時における目指す子ども像」に基づき設定される。そのため、その内容・表現によっては、義務教育修了時を担う中学部の教職員と、そうでない小学部の教職員との間で目標達成に向けた熱意に温度差が生じることがある。このようなことが起きないように、小1から中3までの9年間すべての教育活動が結びつくような内容・表現にすることが大切である。

次に小中共通の重点課題では、小中の教職員の協働体制により取り組むべき課題を設定することが大切である。具体的には、これまでの学校運営を振り返る中で明らかになった小中それぞれの課題の内、小中の教職員の協働体制による取組無しでは解決することが難しいと思われるものを「小中共通の重点課題」とする。このことで取り組む必然性を持った、言わば「生きた小中共通の重点課題」とすることができる。

#### イ 小中一貫教育の全体計画（小中一貫教育9年間活動プラン）

小中共通の教育目標や重点課題に対して、小中の教職員が連携・協働しながらその課題解決や目標達成を図る上で、その全体計画はとても重要である。

小中一貫教育の全体計画では、小中共通の教育目標（義務教育9ヵ年を通して目指す教育目標）に基づき、義務教育9ヵ年の区分（小1から小4までを前期・小5から中1までを中期、中2から中3までを後期等）の教育目標を定めていく。

次に、各区分（各期）における教育目標を定め、それらが段階的に小中共通の教育目標に迫るように設定する。

そして、各区分（各期）における教育目標を達成するための取組（教育活動）を定めていく。

更には、これまでの教育活動の振り返りに基づき、各区分（各期）における重点課題を示していく。

このようにつくられた全体計画から「PDCAサイクルによる小中一貫教育の推進」に、より迫ることができる。

#### ウ 小中一貫教育推進のための組織（穂波東校小中経営部会）

小中一貫教育を確実に進めていく上で、その中核となる組織（小中経営部会等）が必要となる。この組織の構成は、小中の校長、教頭、主幹教諭等が中心となる。

小中経営部会（以下、経営部会）の会議の頻度は、校区の課題や取組内容によって変わるが、小中一貫教育の推進の土台は、小中間の日常的な情報交換であることを考えると月に一度くらいは実施することが望ましいと言える。

そして、この経営部会の会議では、本年度の校区の重点課題・年間スケジュール・異学年交流や合同行事の打合せ・学力テストの結果と分析等、小中一貫教育に係る

様々な内容についての協議や交流等を行う。

また、経営部会とは別に、小中の教職員から成る小中合同研究会（学力向上部会、生徒指導部会、未来の教育部会）を構成し、取組を進めることは、小中共通の重点課題の解決を図る上でとても有効である。経営部会のリードの下、組織的・計画的に小中合同研究会の取組を進めることで、効率的に小中共通の重点課題の解決を図ることができる。

#### エ 教育環境づくり

校内の掲示物を充実する等の教育環境づくりは、自校の教育活動の充実を図る上で有効な手段であり、小中一貫教育を進める上でも同じことが言える。例えば、校内の掲示物等を通して、小中それぞれの情報を発信し合ったり、同じ情報を共有し合ったりすることで、小中の教職員及び児童生徒が互いに知り合い、更には学び合う関係を築くことに迫ることができる。その具体例は、小中共通の教育目標、児童会・生徒会の月目標、小中それぞれの学校通信、小中共通の生活のルール、中学部の部活動の大会結果等、創意工夫次第で実に様々な情報を発信することができる。



## Ⅱ 穂波東校：学校運営の実際【実践編】

### 1 穂波東校の小中一貫教育に係る組織

#### (1) 穂波東校小中経営部会

穂波東校における円滑な小中一貫教育の推進を目的とし、穂波東校小中経営部会による小中一貫教育推進会議を、1～2週間に一度の頻度で実施している。

部会の構成メンバーは小学部・中学部の校長、教頭、主幹教諭であり、議題によっては、各種主任等がこれに加わる。この小中一貫教育推進会議は「穂波東校9年間の教育活動プラン」等に基づいた教育活動や、異学年交流等の特色ある小中一貫教育活動等が、組織的・計画的、且つ円滑に実施できるよう企画・立案・調整等を行うことを主たる任務としている。

この会議で話し合われた内容は、毎回その議事録を作成し、PC上の掲示板に掲載したり、教職員向けの便りである「穂波東校小中一貫教育だより」(本校HP参照)にまとめ、全職員に配布したりして、共通理解を図っている。

#### (2) 穂波東校校務分掌組織

小中の校務分掌組織は、小中共通に「教務部」「研修部」「生徒指導部」「健康教育部」「事務部」の5部会で構成することで、協働体制づくりを図っている。各部会には部長を設置し、各部長がコーディネーター役となり小中の教員が協働で小中一貫教育に取り組んでいる。

教務部																研修部			生徒指導部			健康教育部					事務部				
教育管理		教育課程														主題 研修	一般 研修	学 習 の 充 実	生徒 指導	補 導 ・ 不 登 校 対 応	部 活 動	教 育 相 談	安 全 教 育	体 力 向 上	保 健 指 導	食 育 ア レ ル ギ ー 食 対 応	環 境 整 備 ・ 安 全 ・ 管 理	環 境 整 備	総 務	経 理	管 財
教育 計画 管理	学 校 行 事	各 道 外 語 学 習 の 時 間	道 徳	特 別 活 動	学 級 活 動 (SELIS)	児 童 会 活 動 代 表 委 員 会	会 集 活 動	ク ラ ブ	異 年 齢 交 流 活 動	キ ャ リ ア 教 育	人 権 ・ 同 和 教 育	図 書 館 教 育	特 別 支 援 教 育	放 送 ・ 視 聴 覚	情 報 教 育 I C T 活 用																
小 学 部	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小											小	小	小		
中 学 部	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中											中	中	中		

【穂波東校 校務分掌組織（小中の一体化）】

#### (3) 穂波東校小中合同研究会

「穂波東校小中一貫教育9年間活動プラン」に示された重点課題の解決に向け、小・中の全教職員から成る小中合同研究会を構成し、課題解決に向け、組織的・計画的に取り組む。

組を進めている。

本年度の「小中重点課題」は「活用力の育成、基礎・基本の確実な習得」「不登校児童生徒の減少」「これからの時代に求められる資質・能力の更なる育成」であり、これに応じて「小中合同研究会」を「学力向上部会」「生徒指導部会」「未来の教育部会」の3部構成とした。そして、それぞれが「小中重点課題」の解決に向け、方策を練り、実践し、その内容を評価するなどして、年間を通して取組を進める。

## 2 穂波東校の小中一貫教育に係る運営

### (1) 小学部・中学部学校行事

施設一体型小中一貫校を開校するにあたり、これまでに実施してきた穂波東小学校と穂波東中学校のそれぞれの各種行事について、以下のことを検討の視点として、穂波東校小中経営部会で協議を重ね、小中一貫校穂波東校としての学校行事を決定した。

- ・ 合同行事の取組過程や実施において、児童生徒が交流することで教育効果を得ることができるか。
- ・ 新たに合同行事を創り出すために、費やす労力に対する効果が高いかどうか。
- ・ 合同行事の実施で小中一貫教育を通して目指すねらいを、児童生徒・教職員・地域・保護者に意識付けられるかどうか。
- ・ 合同行事の実施に対して、地域・保護者の理解を得られるかどうか。
- ・ 人的（教職員数等）、物的（施設・設備等）、教育課程運営（授業時数等）と取組のねらいが生かされた合同行事が実施できるかどうか。

### 【穂波東校 学校行事】

#### ① 儀式的行事

行 事 名	対 象 学 年	実 施 時 期	実 施 形 態			判 断 理 由
			合 同	一 部 合 同	別	
赴 任 式	2～6・8・9	4月5日	○			児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。
1学期始業式	2～6・8・9	4月5日		○		一貫校としての意識をもたせるための合同での式の後、各部での発達段階に応じた学期始めの意欲付けを図る。
入 学 式（中）	7～9	4月上旬			○	中学入学の節目であり、7年生に中学生としての自覚をもたせる。
入 学 式（小）	1・6	4月上旬			○	小学校入学の行事であり、6年生の学部最上級生としての自覚をもたせる行事とするため。
離 任 式	2～9	4月上旬	○			穂波東校から転出された先生方へ、お世話になった感謝の気持ちをもたせ、伝える機会とするため。
1学期終業式	1～9	7月20日		○		児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。
2学期始業式	1～9	9月1日		○		児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。
2学期終業式	1～9	12月24日		○		児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。
3学期始業式	1～9	1月8日		○		児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。
卒 業 式（中）	7～9	3月中旬			○	
卒 業 式（小）	5・6	3月中旬			○	
修 了 式	1～5・7・8	3月下旬		○		児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。

② 文化的行事

行事名	対象学年	実施時期	実施形態			判断理由
			合同	一部合同	別	
文化発表会(中)	5～9	10月下旬		○		中学部の行事ではあるが、中期の児童にも参加させることにより、児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。
立志式(中)	7～9	11月上旬			○	
2分の1成人式(小)	4	1月下旬			○	

③ 健康安全・体育的行事

行事名	対象学年	実施時期	実施形態			判断理由
			合同	一部合同	別	
発育測定・健康診断	1～9	4～6月			○	校医が小中で異なる・児童生徒数が多い。
知能検査(小)	2	4月下旬		○		単独学年が対象のため。
体育会(中)	7～9	5月下旬			○	合同では、児童生徒の出番が少なくなる・練習場所の確保。
避難訓練	1～9	5～10月	○			実際の場面に近づけるため。
運動会(小)	1～6	10月上旬			○	合同では、児童生徒の出番が少なくなる・練習場所の確保。
交通教室(小)	1～6	5月中旬			○	低と中学年に分け、発達段階に応じた内容とする。
クラスマッチ(中)	7～9	11～2月			○	競技内容を考えると、中学部のみが適当。

④ 遠足・集団宿泊の行事

行事名	対象学年	実施時期	実施形態			判断理由
			合同	一部合同	別	
歓迎遠足(小)	1～6	4月下旬			○	
修学旅行(小)	6	5月中旬			○	単独学年が対象の行事であるため。
社会科見学(小)	4	5月下旬			○	単独学年が対象の行事であるため。
宿泊訓練(小)	5	6月			○	単独学年が対象の行事であるため。
秋の遠足(小)	1～6	10月下旬			○	
社会科見学(小)	5	10月			○	単独学年が対象の行事であるため。
修学旅行(中)	8	12月			○	単独学年が対象の行事であるため。

⑤ 勤労生産・奉仕的行事

行事名	対象学年	実施時期	実施形態			判断理由
			合同	一部合同	別	
1学期始大掃除	2～6・8・9	4月5日	○			
入学式大掃除	2～6・8・9	4月上旬			○	各部入学式の日程に合わせて実施。
入学式準備	6・8・9	4月上旬			○	各部入学式の日程に合わせて実施。
プール掃除		6月上旬			○	水泳部が中心に行う。
1学期末大掃除	1～9	7月20日	○			
2学期始大掃除	1～9	9月1日	○			
2学期末大掃除	1～9	12月24日	○			
3学期始大掃除	1～9	1月8日	○			
卒業式大掃除	1～5・7・8	3月			○	各部卒業式の日程に合わせて実施。
卒業式準備	5・7・8	3月			○	各部卒業式の日程に合わせて実施。
学年末大掃除	1～5・7・8	3月24日	○			児童・生徒・職員に一貫校としての意識をもたせる。



⑥ 児童会活動・生徒会活動関係

行 事 名	対 象 学 年	実 施 時 期	実 施 形 態			判 断 理 由
			合 同	一 部 合 同	別	
対面式（中）	7～9	4月			○	
歓迎集会（小）	1～6	4月			○	
生徒総会（中）	7～9	6月			○	
人権集会（小）	1～6	7月			○	
平和集会	1～9	8月	○			
生徒会役員改選（中）	7～9	12月			○	
6年生の卒業を お祝いする会（小）	1～6	2月下旬			○	

(2) 穂波東校の校時

穂波東校における小学部・中学部の校時表の作成については次の点を留意した。

- ・ 2、3、5校時の始業時刻を合わせることで、チャレンジ授業や異学年交流の実施を容易にした。
- ・ 登校時刻を同じにすることで、送迎等での保護者の理解・協力が得られるとともに、児童生徒の登校時の安全面に配慮している。

【穂波東校：小学部・中学部校時表】

小学部（月・水・金曜日）		中学部（月・火・水・金曜日）	
登校	7：45～ 8：25	登校	7：40～ 8：25
朝の会 健康観察	8：25～ 8：35	朝の読書	8：25～ 8：35
学びタイム	8：35～ 8：55	朝の会	8：35～ 8：45
1校時	9：00～ 9：45	1校時	8：50～ 9：40
2校時	9：50～10：35	2校時	9：50～10：40
中休み	10：35～10：50		
3校時	10：50～11：35	3校時	10：50～11：40
4校時	11：40～12：25	4校時	11：50～12：40
給食	12：25～13：00	給食	12：40～13：15
昼休み (予鈴)	13：00～13：45 (13：40)	昼休み (予鈴)	13：15～13：45 (13：40)
掃除	13：45～14：00	掃除	13：45～14：00
5校時	14：05～14：50	5校時	14：05～14：55
6校時	14：55～15：40	6校時	15：05～15：55
帰りの会	15：40～15：55	チャレンジタイム	16：00～16：10
		帰りの会	16：10～16：25
下校	16:00	下校	16:25

### Ⅲ 穂波東校：教育活動の実際【実践編】

#### 1 異学年交流

##### (1) C-L Time (異学年交流学習)

「C-L Time」は「Co-Learning Time」の略で、「異学年による交流学習の時間」という意味である。具体的には、中学部の生徒が先生役となり小学部の児童に学習の支援等を行う異学年交流学習である。

##### ◎ 穂波東校の「英語教育」

「未来志向・本物志向の教育」の一環として、穂波東校では「英語教育」の充実に向け、様々な取組が展開されています。

##### ① 「Co-Learning Time」 (異学年交流学習。略して C-L Time)

中学部の生徒が先生役となり小学部の児童に学習の支援等を行う「C-L Time」。今回、8年生と3年生による「C-L Time」を実施しました。

○単元：第3学年「好きなものを伝えよう」

○本時の主な英語表現：Do you like ○○? Yes, I do. / No, I don't.



先生役の中学生と本時の英語表現の練習をする児童たち



好きなものを聞き合う活動を行っている様子

楽しい雰囲気の中で児童と生徒が英語でのやりとりをしている姿を見ることができました。

「穂波東校小中一貫教育だより 平成30年10月31日 第10号」より

##### (2) かけ算九九ボランティア

11月の一定期間の昼休みの時間を利用して、中学部のボランティアの生徒が先生役となり、小学部2年生の「かけ算九九の暗唱」を聞き、その評価や指導を行う。2年生の児童が中学生の前で覚えた九九を暗唱し、それに対して生徒たちは、「よくできたね。」等と声をかけながら、「九九カード」に合格の印を書いていく。チャレンジする機会が増え、2年生が早く九九を覚えることができるだけでなく、聞いてくれている中学部生徒にとっても、何度も一生懸命チャレンジする2年生の姿に、自分も頑張ろうという気持ちになったと感想を伝えてくれた。また、中学部生徒の2年生に優しく声をかける姿が多く見られ、教師にとっても生徒の良い面を多く発見できる機会となった。双方にとって、有意義な取組になっている。

### ◎ 穂波東校：異学年交流の創造

穂波東校で、また新たな異学年交流が創られました。「かけ算九九：異学年交流」です。11月26日から12月14日までの昼休み、中学部のボランティア（現在18名）の生徒が先生役となり、小学部2年生の「かけ算九九の暗唱」を聞いてやり、その評価や指導をしています。いわば、「かけ算九九のC-L Time：昼休み・ボランティア版」といったものです。児童も生徒も生き生きとした表情で取り組んでいます。

とても素晴らしい光景です。先生方、一度その様子を見に行かれて下さい。（会場は2年生教室）



中学生の前でかけ算九九  
を暗唱する児童たち

「穂波東校小中一貫教育だより 平成30年11月29日 第11号」より  
「穂波東校小中一貫教育だより 令和3年12月28日 第9号」に関連記事

### (3) 平和学習の折り鶴づくり

本校は8月6日の平和学習において、1年生から9年生までの全学年で折り鶴づくりに取り組む。この時、6年生から9年生の児童生徒が先生役となり、小学部の低・中学年の児童に折り鶴づくりの支援等を行う。

### ◎ 異学年交流：平和学習の折り鶴づくり

8月6日の平和学習では、田川人権センターの光武所長を講師としてお招きし、穂波東校全児童生徒を対象に戦争や平和についてご講演をいただきました。・・・講演後は折り鶴づくりを行いました。折り鶴づくりに支援が必要と思われる小学部の低・中学年には6年生から9年生の児童生徒が各教室に出向いて、先生役となり、折り鶴づくりの指導・支援を行いました。

異学年交流を通して上級生は下級生の手本となり、下級生は上級生を手本とし、上級生は自尊感情の向上を下級生はモデル形成等を実現しながら、互いに高め合うことができます。これからも多様な異学年交流を創造していきましょう。



小学部児童に折り鶴づくりの指導・支援を行う中学部生徒たち



折り鶴づくりでの異学年交流は「1年生・6年生」「2年生・7年生」「3年生・8年生」「4年生・9年生」の組み合わせで行いました。異学年交流では、「取り扱う内容」によって適切に「学年の組み合わせ」を選定することが肝となります。今回は適切な組み合わせであったと感じました。

「穂波東校小中一貫教育だより 平成30年8月7日 第7号」より

全校で折った折り鶴で「平和のパネル」を作成し、翌年6年生が修学旅行で長崎の原爆資料館に献納している。

#### (4) 小中合同表彰式

穂波東校では、始業式・終業式ともに小中合同で行う。この時、中学部の部活動の活躍報告も行う。各部活動の代表者が、大会で手にした優勝旗や賞状を持ってステージに立ち、全児童生徒に披露する。

##### ◎ 穂波東校：異学年交流の創造

###### ○ 小中合同表彰式

穂波東校の部活動はこの夏の大会・コンクールにおいて大いに活躍し、たくさんの表彰を受けました。

2学期の小中合同始業式では、表彰を受けた各部や部員たちが、夏の大会で手にした優勝旗や賞状を持ってステージに立ち、全児童生徒に披露しました。



賞状や優勝旗、優勝カップを手にした先輩たちを見つめる小学部の児童たち

中学部の部活動生には自尊感情の向上が、小学部の児童には「穂波東校の先輩たちはすごい。」「私もあんな先輩たちのようにになりたい。」といった目標やモデル形成が図られたことと思います。

「穂波東校小中一貫教育だより 平成30年 9月13日 第8号」より

#### (5) 小学生と美術部員によるオブジェづくり

美術部が中心となり、小学生の参加を募り、共同で文化発表会等に向けた作品をつくる。活動時間は昼休みである。小学生は、美術部員の手ほどきを受けながら、作品づくりに参加する。

##### ◎ 穂波東校：異学年交流の創造

###### ○ 小学生と美術部員のコラボによるオブジェづくり

玄関ホールには、金子みすゞさんの「大漁」をモチーフにした、素晴らしい作品（オブジェ）が展示されています。この作品は現在作成進行中です。美術部が中心となり、希望する小学生を受け入れ、ともに作品をつくっています。小学生は、美術部員の手ほどきを受けながら、魚（イワシ）の絵を作り、それを土台に貼っていきます。活動時間は昼休みです。毎日、何人もの小学生が活動に参加しています。筆者にとって、このようなスタイルの異学年交流は初めて見ます。施設一体型小中一貫校における異学年交流の先駆的な取組であると感じています。



美術部員の手ほどきを受けながら、魚の作品をつくる児童たち。すべての魚がやがて一つの大きな群れとなります。

「穂波東校小中一貫教育だより 平成30年 9月13日 第8号」より

文化発表会での美術部のオブジェは、毎年小学生にたくさんの刺激を与えている。

## 2 チャレンジ授業（出前授業）

中1ギャップの解消と、より専門的な学習を経験させること等をねらい、小学部の児童が中学部エリアの教室に出向いて授業を受ける「チャレンジ授業」を実施している。

### ◎ チャレンジ授業

2学期に入り、いよいよチャレンジ授業がスタートしました。

チャレンジ授業は、従来の“出前授業”の逆バージョン！ 児童が中学部の教室に出向いて受ける新バージョンです。小中一貫教育の取組としては、斬新なアイデアであると言えます。このチャレンジ授業では、児童が中学部の教室に実際に出向くことで、「やがて中学生になるんだ！」という意識をより強く持たせることが期待できます。また、穂波東校では、小学部の担任が事前指導を行っていることから、その効果は更に高まっています。

・・・中略・・・

そして、チャレンジ授業を受けた児童からは、その良さを認める感想が出ています。

#### チャレンジ授業を受けた児童の感想（一例）

- 音楽の授業を松尾先生にしてもらって、歌のうたい方が変わって、歌がうたいやすくなりました。だから、元々苦手だった歌が好きになりました。
- 理科は実験だけでなく、実験に使う物の説明までしてくれて、分かりやすかったです。中学校に入っても忘れずに話をちゃんと聞いて、小学校より聞く態度を良くして学んでいきます。
- （チャレンジ授業を通して）中学校に入るのが楽しみになりました。

今後も色々な教科でチャレンジ授業を展開したいと思いますので、先生方のご協力をお願いします。

「穂波東校小中一貫教育だより 平成30年10月15日 第9号」より

「穂波東校小中一貫教育だより 令和3年6月17日 第4号」に関連記事

令和4年度は、5・6年生の全ての教科で、チャレンジ授業を計画している。

取組の反省をもとに、投げ入れの授業だけではなく、小学部・中学部双方からの要望をすり合わせ、小学部のカリキュラムの中から中学部での学習につながる課題を選び、授業を行っている。

小学部では、児童が目的意識をもって参加できるように事前指導を行い、学習後の児童の感想を中学部の授業者に返している。児童にとっては、中学部や教科への興味・関心を高めるとともに、授業してくれた先生に対しての親しみや尊敬の気持ちをもつことにつながっている。また、授業者にとっても、入学前から児童の実態をつかむことができ、授業後は、校舎内での声かけもしやすくなるなどの効果も出ている。

### 3 未来志向の授業づくり（英語教育、プログラミング教育、ICT教育）

穂波東校でも、他の飯塚市立小・中学校と同じように飯塚市の教育施策に基づき、これからの変化の激しい社会を見据えた「未来志向」の教育に取り組んでいる。穂波東校では、特に、社会の変化の中でも「AIの果たす役割が増える社会」「多国籍の方々と共生する社会」の変化に重きを置き、英語教育やプログラミング教育を小中一貫教育により取り組んでいる。

英語教育については、前述したようなC-L Timeに加え、「英語に慣れ・親しみ、英語によるコミュニケーション能力を育てる」をねらいとする「小学部のオンライン英会話」「小学部高学年の外国語専科教員による授業」や「中学部のオールイングリッシュに迫る授業」等の英語授業や、校内の色々な場所に英語に関する掲示物を整備し、日常的に英語に触れる環境づくり等に取り組んでいる。

また、プログラミング教育では、小学部高学年を対象にロボブロック：Robo Blocksを、中学部では飯塚市が提携しているソフトバンク社で開発されたPepperとMicro:bitを活用した「IoTチャレンジ授業」並びに「プログル技術」のコンテンツを活用したプログラミング教育に取り組んでいる。

ICT教育においては、タブレット端末や電子黒板等のICT機器を活用し、「個々の理解度やペースでタブレット・ドリル学習に取り組む」「検索サイトを使い調べ学習を行う」「動画や画像を通じて学ぶ」「共同して課題に取り組む」等、新しいスタイルの「学びの充実・個別最適化」に取り組んでいる。

#### ◎ 日常的に英語に触れることができるような環境づくり

「英語に慣れ・親しみ、英語によるコミュニケーション能力を育てる」をねらい、穂波東校では「小学部のオンライン英会話」や「中学部のオールイングリッシュに迫る授業」等の英語の授業に加え、校内の色々な場所に英語に関する掲示物を整備し、日常的に英語に触れる環境づくりにも取り組んでいます。



「穂波東校小中一貫教育だより 平成31年10月31日 第10号」より

## ◎ プログラミング教育 ～飯塚市とソフトバンクの協定～

飯塚市は、プログラミング教育に係る教育環境の充実や、ロボットと共生する社会で活躍する人材の育成を目指し、ソフトバンクと教育分野での連携に関する協定を結びました。協定では、飯塚市は、ロボット「ペッパー」を市内全小中学校に導入し、プログラミング教育の充実・人材育成を図るとしています。締結式で片峯市長は「プログラミング教育の充実はもちろん、学習、教育環境の総合的な整備が進むことを期待している。」と挨拶されました。今回の締結により、穂波東校でも小学部・中学部1台ずつの「ペッパー」が配置されるようになりました。



「穂波東校小中一貫教育だより 平成31年1月11日 第12号」より

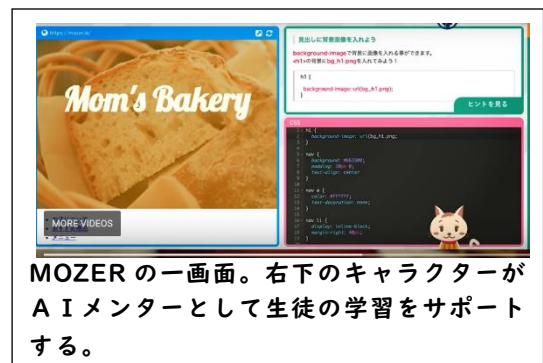
## ◎ プログラミング教育 ～穂波東校のプログラミング教育～

現在、穂波東校では小学部高学年を対象に Robo blocks を、中学部では経済産業省の「未来の教室実証事業」で開発された MOZER を使って（MOZER 開発の研究協力校として）プログラミング教育に取り組んでいます。いずれも、中学部技術科担当の切通主幹が中心となつての先進的な取組です。

Robo blocks はボックス型の言語を使い、画面の中のロボットを動かします。児童はバーチャル空間でロボットが思い通りに動くようにプログラミングに取り組めます。

MOZER は HTML・CSS（ボックス型より更に実際に使われている言語に近い言語）を使って、web デザインに取り組めます。

このような穂波東校が小中一貫教育として取り組んでいるプログラミング学習に、「ペッパー」配置の条件が加わることで、更なる充実を図ることが期待できます。



「穂波東校小中一貫教育だより 平成31年1月11日 第12号」より



## ◎ タブレット端末

穂波東校では、小学部の右田先生、中学部の藤田先生、切通先生が中心となり、組織的・計画的にタブレット端末の使用法等についての授業を行っています。児童生徒たちは、タブレット端末にすぐに慣れ、覚えも早く、授業を重ねる毎にスキルを向上させています。例えば、5年生以上（中期・後期）の児童生徒は、現段階でほとんどが自分一人で次のような操作ができるようになりました。

- グーグル Googleへログインし、検索 検索サイトを使って調べ学習をする。
- 「グーグル Google Workspace for フォー Education」へログインし、「グーグル Google Classroom」等の様々な教育用アプリの基本的操作を行う。
- 「タブレットドリル」を使用する。

穂波東校では、各先生方のご努力のお陰で「タブレット端末のスキル習得」において、当初の第一段階の目標を達成したものと考えます。



タブレット端末の操作方法について学習する生徒たち

「穂波東校小中一貫教育だより 令和 3年 5月 25日 第3号」より

「穂波東校小中一貫教育だより 令和 3年 4月 22日 第1号」に関連記事

「穂波東校小中一貫教育だより 令和 3年 11月 15日 第7号」に関連記事



## IV 穂波東校：小中一貫教育9年間活動プランの実際

### 1 穂波東校：小中一貫教育9年間活動プランの取組

#### (1) 飯塚市：小中一貫教育9年間活動プラン

「小中一貫教育9年間活動プラン（以下、「9年間プラン」）」は、飯塚市で最初の施設一体型小中一貫校である顛田校からスタートした飯塚市発の小中一貫教育の取組である。

その内容は、前述したように、学力向上、体力向上、豊かな心の育成等において、義務教育9年間で育成する子どもの姿を設定し、この目標に向かって前期・中期・後期の3期ごとに目標と取組を設定した教育計画である。

現在は、飯塚市内の全中学校区において「9年間プラン」が策定され、これに基づいた小中一貫教育が展開されている。

#### (2) 穂波東校：「9年間プラン」

令和元年度、穂波東校では「生きて働く9年間プラン」を目指し、「9年間プラン」の更なる発展に向けた研究をスタートさせた。

従前の「9年間プラン」は、前述したように、「各期の目標」と、その目標を達成するための「各期の取組」から構成される。この「各期の取組」には、穂波東校独自の取組や飯塚市の教育施策としての取組等、様々な取組が記述されている。どれも大切な取組であるが、その中で重点化を図ることで、より効率的な成果が期待できる。そこで、その根拠となる情報として、本校が直面する「課題」を「9年間プラン」に付け加えた。

令和元年度 飯塚市立小中一貫校穂波東校「9年間活動プラン」										
穂波東校学校教育目標 社会を生き抜く力の根っこを育てる										
校種		小学部					中学部			
学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
期		前期			中期		後期			
目標	知	確かな学力								
	徳	豊かな心								
	体	健やかな体								
取組	知	確かな学力								
	徳	豊かな心								
	体	健やかな体								
課題	知	確かな学力								
	徳	豊かな心								
	体	健やかな体								

【従前の「9年間プラン」に課題を付け加えた穂波東校「9年間プラン」】

更に「課題」の中でも、小学部・中学部で力を合わせ、協働体制により取り組まない限り解決しそうでない課題を「小中重点課題」として太字で表すことにした。

#### 穂波東校「小中重点課題」（令和4年度）

- 1 活用力の育成、基礎・基本の確実な習得（二極化の解消）
- 2 不登校児童生徒の減少
- 3 「これからの時代に求められる資質・能力」（英語力・プログラミング的思考力・ICTリテラシー等）の更なる育成

このような「9年間プラン」の改良により、課題を重点化し、小中の協働体制で取り組むための準備を整えることができた。

## ◎ 「9年間プラン」の改善

本日より本年度の「穂波東校小中合同研究会」をスタートします。

まずもって、この会の名称は長いので、通常は「小中合同研」と略したいと思います。

さて、本年度の小中合同研のテーマは、「生きて働く9年間プラン」

・・・中略・・・

### ○ 9年間プランの課題

筆者はこの9年間プランの持つ効果を認めつつ、一方で改善の余地を感じていました。穎田校で9年間プラン誕生に関わってきた筆者がこのように述べることは「いかなものか!？」と思いますが、正直なところそのように感じていました。

9年間プランは、各中学校区で小中の教職員により組織的・計画的に児童生徒を9年間を通して育てていく上でとても有効ですし、筆者自身それを実感していました。もし、この9年間プランが無ければ、各中学校区の小中一貫教育は漠然としたものになったと思います。

しかし、一方、「この9年間プランにより中学校区が抱える課題が解決できた!」と実感したことは正直なところありませんでした。9年間プランの取組が、中学校区の課題解決につながるような、言わば、「生きて働く9年間プラン」になるためには、更なる改善の必要があると考えました。

### ○ 生きて働く9年間プラン

課題解決につながる9年間プランにするためには、とても単純なことです、「9年間プランの中に課題を盛り込めばよい。」というのが結論です。

・・・中略・・・

ちなみに課題をまとめる際は、このための会議を別途持つわけではなく、年度末に行う「教育指導計画書に沿った反省職員会」で確認された内容を基にまとめます。(このようなことも無理・無駄を無くす上で大切です。)

さて、これだけで「生きて働く9年間プラン」になるのでしょうか。いいえ、ここでもう一つ手を加える必要があります。それは、まとめられた課題の中で、小学部・中学部で力を合わせ、正に総力戦で取り組まない限り解決しそうにない課題を太字にするなどして、明確に表すことが必要となります。(この太字などで表す課題を以下「小中重点課題」と表記します。)

「穂波東校小中一貫教育だより 令和元年6月19日 第3号」より

「穂波東校小中一貫教育だより 令和2年2月19日 第11号」に関連記事

「穂波東校小中一貫教育だより 令和3年5月25日 第3号」に関連記事

### (3) 「小中重点課題」の解決に向けた組織づくり

「9年間プラン」に表された「小中重点課題」の解決に向け、その取組の主体となる組織として「小中合同研究会」を構築した。

「小中重点課題」は学力向上及び生徒指導等に関する課題に応じた部会を構成し、課題解決に向けた取組を組織的・計画的に展開している。

#### ◎ 小中一貫教育を通して課題解決！

夏季休業中は小中合同研が主体となり、9年間プランに表された「小中重点課題」の解決に向けて熱心に協議していただきました。そして、各部会より、課題解決に向けた具体的方策が提案されました。以下にその主たる内容を示します。

##### 学力向上部会Ⅰ

日々の授業の中において、活用力の育成を確かなものにするため、5つのポイントを意識した授業づくりに取り組みます。5つのポイントは、「穂波東校授業スタンダード」とし、これを意識した授業改善に学校全体で取り組みます。

##### 生徒指導部会Ⅰ

不登校の未然防止・解消に向け、「穂波東アクション3」を定め、全校で日常的に取り組みます。ステージ1は、未然防止に向けた取組。ステージ2は早期発見・早期対応に向けた子どもの状況に応じた取組。ステージ3は、組織的・継続的な取組が示されています。

##### 学力向上部会Ⅱ

協調学習では、「エキスパート活動で、子どもが専門家になれるための手立ての工夫」「ジグソー活動で、子どもが思考を働かせることができるよう思考の発達段階を考慮した課題設定の工夫」の2点に重点をおいて取り組みます。

##### 生徒指導部会Ⅱ

不登校の未然防止・解消に向け、不登校・不登校傾向の子どもたちの登校や学校生活の状況・家庭状況・関わり方や対応の仕方などに関する情報が、全体で共有できるように、「穂波東校児童生徒カルテ（仮称）」を作り、それを電子データ化していきます。

各部会から提案された具体的方策にこの2学期から皆で取り組み、「活用力の向上」「不登校生の減少」を一步ずつ、着実に進めていきましょう！

「穂波東校小中一貫教育だより 令和元年9月3日 第5号」より

「穂波東校小中一貫教育だより 令和2年2月19日 第11号」に関連記事

「穂波東校小中一貫教育だより 令和3年6月17日 第4号」に関連記事

### (4) 穂波東校：「9年間プラン」の取組：成果と課題

年度末に小中合同研究会を開き、穂波東校：「9年間プラン」の取組の評価を行い、成果と課題を明らかにした。1年間の取組で「小中重点課題」を十分に解決することはできず、次年度へと継続することとなった。しかし、この取組により、「9年間プラン」が、これまで以上に自校の課題解決に大きく働いたことを互いに確認するできたことは、最

も大きな成果であった。当初の目標であった「生きて働く9年間プラン」に近づけることができた。

更に令和4年度より「これからの時代に求められる資質・能力の育成」を新たな小中重点課題とし、この解決に向けた「未来の教育部会」を立ち上げた。

## ◎ 穂波東校小中合同研

2月14日（金）15：30より穂波東校の小学部・中学部の全ての先生方が参加して本年度の穂波東校小中合同研のまとめを行いました。

本年度は、【生きて働く9年間の教育活動プラン】を目指して研究を進めました。その第一歩として、これまでの「9年間の教育活動プラン」を刷新しました。最大の特徴は、9年間プランの中に「前・中・後の各期における課題」を加え、更にその中で小中が力を合わせて取り組まない限り解決しそうでない課題を「小中重点課題」として明記したことです。

### 令和元年度 穂波東校「小中重点課題」

- 1 活用力の育成「全国学力学習状況調査の活用力を問う問題」において小中ともに全国平均以上
- 2 不登校児童生徒の減少

そして、4つの部会を立ち上げ、1年間研究を進め、次のような成果等を得ました。（要点のみ記述）

#### 学力向上部会Ⅰ

成果：「穂波東校授業スタンダード」の作成  
課題：「穂波東校授業スタンダード」の活用  
・全職員がその意義等の理解を深める。  
・全学級に掲示し、日常的に活用する。

#### 生徒指導部会Ⅰ

成果：「穂波東校アクション3」の作成と活用  
課題：「穂波東校アクション3」の取組の充実  
・職員の意識化の向上と取組の充実  
・欠席ボード、家庭連絡票等の小中共通化

#### 学力向上部会Ⅱ

成果：「穂波東校 授業参観シート」の作成と活用  
課題：「授業参観シート」の改良  
\* 1年から9年生まで活用できるシートの開発

#### 生徒指導部会Ⅱ

成果：不登校対応「穂波東校引継ぎシート」の作成  
課題：不登校対応「穂波東校引継ぎシート」の活用  
\* 年度末にデータを入力する。

本年度も何かと大変忙しい1年間でしたが、その中で良く研究を進めていただき、本当にありがとうございました。本年度の成果等を次年度に繋げ、更なる「小中重点課題」の解決を図りたいと思います。

「穂波東校小中一貫教育だより 令和2年2月19日 第11号」より

「穂波東校小中一貫教育だより 令和4年2月10日 第10号」関連記事

# (5) 穂波東校:令和4年度「9年間プラン」

## 穂波東校学校教育目標 社会を生き抜く力の根っこを育てる

校種	小学部						中学部		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
期	前期			中期			後期		

目標	知	確かな学力	学力テスト（NRT・標準学力調査・フクト・全国学テ・県学テ）における全国・県平均以上の学力						
			学習規律の定着、基礎基本の習得・定着			習得した基礎的・基本的内容を活用する力		他者と協働し課題追求・解決する力	
	徳	豊かな心 規範的行動 耐性	凡事徹底（挨拶・掃除・靴並べ・整理整頓・時間を守る・規則を守る）			手本を意識した学校生活を送る力		不登校児童生徒数の減少	
			他者を思いやり、自他の良さを認める力			他者と協力して、より良い集団をつくる力		夢の実現に向け、主体的に取り組む力	
体	健やかな体	新体力テスト調査における全国平均達成項目：2分の1以上の体力							
		運動への意欲づくり、基本的な生活習慣の確立			運動への習慣づくり、健康的な生活習慣の確立		体力向上・健康増進に向けた実践力		

取組	知	確かな学力	協調学習 穂波東校授業スタンダード ICT教育（タブレット端末等の活用）						
			多層指導モデルMIM、学びタイム、スタディアップ 徹底反復学習（陰山メソッド）、学習規律の指導			学びタイム（小）、スタディアップ（小）、補充タイム（小） チャレンジタイム、再チャレ学習（中）、自学ノート（小・中）		チャレンジタイム、再チャレ学習、自学ノート	
	徳	豊かな心 規範的行動 耐性	日常的な凡事徹底の指導 「手本」の指導 キャリアパスポート SEL-8S 人権学習 不登校の未然防止・解消（「穂波東校アクション3」、「穂波東校引き継ぎシート」）、個別の教育相談、						
			ふわふわことばの木、二分の一成人式、いいところ見つけ			スチューデント・シティ（小） ファイナンス・パーク（中） 情報モラル・スキル学習		職場見学・体験学習、立志式 情報モラル・スキル学習	
体	健やかな体	体力向上：一校一取組（「やかたトレーニング（小）」 「ファイブ・ミニッツ・トレーニング（中）」） 体力アップシートの活用 食育・健康教育							
		スポコン広場への参加			スポコン広場への参加（小） 運動部活動（中）		運動部活動、体育的行事（クラスマッチ等）		

課題	知	確かな学力	<b>学力テストにおいて、次の課題が見られる。⇒「活用力の更なる育成」「基礎基本の確実な習得（二極化の解消）」 「これからの時代に求められる資質・能力（英語力・プログラミング的思考力・ICTリテラシー等）」の育成を充実する必要がある。</b>						
			学習規律が定着していない。記述問題の正答率が低い。 「MIMの3rdステージの児童」を減らす必要がある。			全国学力調査及び県学力調査において次の課題が見られる。 ⇒国語・算数（数学）活用型問題、記述式の問題の正答率が平均以下である。		全国学力調査及び県学力調査において次の課題が見られる。 ⇒数学の活用型問題、記述式の問題の正答率が平均以下である。	
	徳	豊かな心 規範的行動 耐性	挨拶、整理整頓で課題が見られる。中学部生徒には今以上「手本」の意識を育てる必要がある。 <b>文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より不登校の児童生徒が多い。</b>						
			自分の思いを伝えきれないことによるトラブルが多い。			「SNS上におけるトラブル」が起きている。（後期も同様） 将来の夢や目標を持っていない児童生徒が多い。		将来の夢や目標の実現に向け、主体的に粘り強く取り組めない生徒が多い。	
体	健やかな体	【R3】体力テスト：全国平均以上：小：45/96項目 中：10/48 ⇒ 特に中は全国平均達成率が2分の1以下であり、更なる体力向上を図る必要がある。 基本的生活習慣・望ましい食習慣の未確立の児童生徒がいる（一部の児童は不登校・学力不振へつながっている）。							
		意欲的に進んで運動をすることでの二極化が見られる。			望ましい運動習慣の確立において二極化が見られる。		体力面において二極化が見られる。		

※「小中重点課題」(太字)に対して、「小中合同研究会」にて課題解決に向けた取組を行う。

## V 穂波東校：公開授業関連資料

### 1 穂波東校授業スタンダード

#### (1) ねらい

- 小中連続した「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、従来の教師主導の「教え込む授業」から児童生徒が主体となる「学びとる授業」への授業改善を図る。
- 基本的な学習過程と各段階における思考を深めるための具体的な指導のポイントを共有することにより、小・中9学年の授業全ての基本スタイルとして取り組む。
- 各教室において「学習の進め方」(巻末資料参照)として学習過程を掲示することで、児童生徒を、学習過程を意識し見通しを持った主体的な学習者として育成する。

#### (2) 概要

- 「穂波東校授業スタンダード」とは、一単位時間・単元全体における学習過程モデルと各段階の目指す子どもの姿・指導のポイントを示したものである。

#### 【穂波東校授業スタンダード】

段階	学習過程		目指す子どもの姿	教師の働きかけ (指導・支援)のポイント
導入	つかむ	課題の提示 問いをもつ	本時の課題をつかみ、課題解決への意欲をもつ 「前回と違うのはここだ。」 「どうしてだろう?」 「何が問題なのだろう?」 「前回あれを学習したから、今日はここを学習するんだな。」	課題設定の工夫(リアルで必然性のある課題) 掲示の工夫(資料の見せ方・問の投げかけ方) 前時・既習事項と比較 既習・経験とつなぐ
	見通す	学習課題 めあての設定	前時までの学習や、経験を生かして、課題解決を図るための方法・解決の見通しをもつ 「前に学習したあの方法が使えそうだ。」 「あの時はこうだったから、今日はこうなるんじゃないかな。」	既習の解決方法(見方・考え方/方法)を活用させる ゴールイメージを示す 考える視点・取り組む視点を示す
展開	もつ	一人学び (個人思考)	課題に対して、自分なりの考えをもつ 根拠や理由とともに意見をもつ 「私は、(課題)について〇〇と思う。理由は、△△だからである。」 「ここまでは分かったけど、〇〇については、分からない。」	既習事項が生かせる掲示物等 個人思考の時間の確保 各自の考えを掌握する 解決に効果的な考えは、広げる
	深める・広げる	学び合い1 対話・話し合い (集団思考) ・ペア ・グループ	一人学びの中で考えたことや分からなかったことを、ペアやグループの中で伝え、よりよい解決方法を協働で見つけようとする	考えを交流する場を設定する 学習形態(ペア・グループ)を工夫する 共通点・相違点を整理する 課題に対する答えとして説得力のあるものはどれか

展開	深める・広げる	学び合い2 ・全体	ペアやグループでの学び合いで考えたこと疑問に思ったことを全体で出し合い、検討しながらさらによりよい・多様な課題解決に向かおうとする 「AさんとBさんの考えを比べて…」 「Aさんの考えを聞いて…」 「Aさんの考えに似ているけど…」 「Aさんの考えに付け加えて…」 「確かに〇〇かもしれませんが。しかし…」 「Bさんに質問です。」 「〇〇な場合はどうなりますか。」	子どもの考えを構造的に整理し板書する 子どもの考えを確かにつかみ、生かす 明確にするためによく「聴く」 課題解決に向かうように考えを「つなぐ」（「比べる」） 課題解決の道筋から離れないように、既習内容やめあてに「もどす」
終末	まとめる	まとめ 価値の共有	「今日使った解決方法は」 「〇〇は、△△すれば解決できる」 「〇〇については、△△なので、□□だということが分かった」	学習したこと・課題に対する結論を言語化させる キーワードを確認する 子どもの言葉でまとめる 課題に対するまとめ ねらいにあったまとめ
		リフレクション (振り返り)	「今日新しく学んだことは…」 「Aさんの考えに賛成で、…」 「Aさんの説明で〇〇と分かった。」 「次は、△△について学習したい。」 「新たに〇〇という疑問が出てきた。」 「よく分からなかったことは…」	本時の学びを価値付ける（内容・方法） 振り返りの視点を提示する 次の学び、これからの生き方につなげる 価値ある振り返りを共有する

○ 「穂波東校授業スタンダード」で求められる教師の役割

- \* 「聴く」「つなぐ」「もどす」というコーディネーターとしての役割。
- \* 子どものつぶやき（気づき）が生まれる授業、つぶやきを生かす授業づくり。
- \* 「わからない」「困っている」と言える。→一人にしない。
- \* 「問い」「問題解決」への意欲をもたせる。
- \* 子どもの発言・表現（つぶやきも含め）を価値づけたり、高めたりする。  
（上位の言葉にまとめることで、以降の学びに転移できる見方・考え方にする）
- \* 子ども同士の考え方を関連付け、さらに新たな気づきへと発展させる。
- \* 子ども一人一人の学習状況を正しく見取り評価をする。
- \* 授業を通して、学級づくりをする。

(3) 区分ごとの目標と取組

	前期	中期	後期
目標	めあてと本時ゴールを意識し、既習内容や方法を使って考えようとする。 *何を学ぶのか分かっている。	既習内容・方法を基に、考えや解決の見通しをもつことができる。 *学ぶ内容と方法が分かっている。	既習事項とのつながりを意識して課題をつかんだり、解決の見通しを立てたりすることができる。
	ペアやグループで、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりして、学び合えることができる。	ペアやグループでの対話を通して、よりよい解決方法を見つけようとする事ができる。	課題に対する自分の考えをもった上で、学習を通してより良いものにしていこうとする。
	本時学習したことを、自分の言葉で言うことができる。	本時学習したことは何か、内容や方法について言語で表現できる。	本時学習における自己の変容を自覚し、次時や今後の学びにつなげることができる。
取組	導入段階：めあて・ゴールイメージ・解決までの見通しを、児童と共有する。既習内容との関連や、既習の方法の活用について、想起させる。	導入段階：既習事項や前時学習内容を提示する。課題解決までの見通しをもたせる。	
	展開段階：ペアやグループでの対話については、具体的なモデルを示す。	展開段階：課題に応じた分かりやすい説明方法や発言の仕方を提示する。話し合いの視点や思考ツール等を提示する。	展開段階：まず、個人思考の時間を設定し、自己の考えをもたせる。
	終末段階：学習したことを表現させる。リフレクションの視点を提示し、学びについて価値づける。	終末段階：リフレクションの視点を提示し、学習内容や方法について価値づける。	終末段階：自己の変容を意識できるリフレクションを位置づける。

(4) 実際

- 令和2年度から、小学部中学部ともに主題研究の副主題に「授業スタンダード」を取り入れ、「授業スタンダード」による授業改善を通して、「思考力・判断力・表現力の育成」及び「基礎基本を活用した問題解決力の育成」に取り組んでいる。
- 全員年1回の研究授業（授業公開）を実施し、「授業参観シート」を活用して、児童生徒の学びの姿から授業を検証し、教師も相互に学び合い、自らの指導の在り方に改善を加えながら授業改善を進めている。
- 小中一貫研究部会の学力向上部Iにおいてテーマに「授業スタンダード」による授業改善を挙げ、理論研修と共に、年1回の小中間の授業交流を実施している。

【年間計画】

時期	内容
4月	組織づくり、研究構想検討（小中）
5月	研究構想の提案
6月	提案授業 理論研（講師研修）
7月～8月	授業研究の計画（希望集約と調整） 指導案作成 各部内検討
9月～12月	授業研究（一人一授業）、事前事後協議会
1月～3月	研究のまとめ 次年度の主題研究について方向性の検討

(5) 公開授業

第6学年1組 単元名「立体の体積」（モデル授業指導案参照）



## 2 穂波東校授業スタンダードに基づく各小中一貫教育活動

### (1) 協調学習（知識構成型ジグソー法）

#### ① ねらい

知識構成型ジグソー法による協調学習とは、建設的相互作用（話し手と聞き手の相互作用を通して新しい考えが生まれ続ける学習メカニズム）を通して、一人一人の子どもたちが自分の考えを深める活動を指す。子どもたち一人一人が持つ知識や経験をつなぐために、お互いが自分の考えを外に出して確認しながら一人一人が学び、考えを見直していく学習の総称である。

飯塚市ではこの協調学習を実現しやすい学習手法として、東京大学 CoREF が提唱する「知識構成型ジグソー法」（3つの異なる考えを組み合わせる課題に対する答えを出す学習法）を採用し、「協調学習」として実践している。

本校においては、「授業スタンダード」の学習過程に、「協調学習」の学習手法を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる。

#### ② 概要

##### ○ 知識構成型ジグソー法による協調学習の学習過程

段階	学 習 過 程		児童生徒の学びの姿	指導のポイント
導 入	問いの設定	「問い」をもつ	考える課題は何か	リアリティのある質の高い問いの設定。
	課題に対して答えを出してみる（一人学び）	既習（自分の分かっていること）を意識化する	・課題について、自分が何を知っているか／何を知らないか	解決のために対話が必要な問いの設定。
展 開	エキスパート活動（グループ学び）	資料についての理解を深める	課題について、「伝えられそうなこと」をもつ	複数の立場・視点から考えるための材料の提示
	ジグソー活動（グループ学び）	3つの資料を活用（交換・統合）し理解を深め、問いの答えを導く	異なる視点をもった人との対話を通して、課題についての考えを先に進める	深い学びのための支援の工夫「思考のための技能」「思考ツール」の提示等
	クロストーク（全体学び）	全体で交流し、最適解・納得解を導き出す	課題について、「よさそうだ」と思う考え・説明・表現を取り入れる	思考を可視化し比較・関連づけを行う。思考を揺さぶる
終 末	再度、課題に自分の答えを出す（一人学び）	学習を生かして、再度自分の考えをつくる		
	振り返り		学習して、「自分が分かってきたこと」「まだわからないこと」を自覚する	自己変容を自覚する振り返り次の学びにつながる振り返り

③ 協調学習に見られる各期の発達段階（区分ごとの目標と取組）

	前期（1～4年生）	中期（5～7年生）	後期（8・9年生）
思考の パターン	順序 比較 関係づけ	統合 推論	批判
指導上の 留意点等	・意欲を持たせるための具体物を示したり、操作活動を取り入れたりする。	・具体的な結論から一般的な結論へと導く。 ・文章量が増加。 ・情報が複雑に混ざりあう。	・自分の生活と結び付けた結論へと導く。 ・多面的、多角的な考えを促す。

④ 実際 【中期】第6学年 社会科「戦争と人々の暮らし」

ア 導入

- 問いの設定:すぐには答えが出ない課題・主体的に取り組める課題を設定する。

太平洋戦争はなぜ起きたのだろう

- はじめの考え:既習である日清・日露・日中戦争の原因及び当時の状況や歴史の流れから、自分なりの考えをもつ。

イ 展開

- エキスパート活動:問いに迫る3つの資料を各担当に与え、資料から分かることを話し合う。

- A アメリカから日本に対する政策
- B 日本と中国との関係
- C ブロック政策について



【資料1: エキスパート活動の様子】

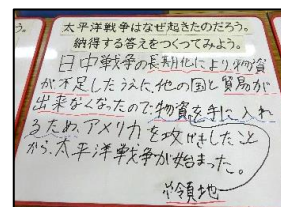
- ジグソー活動:グループにもどり、自分のエキスパート資料についてA・B・Cの順で内容を伝える。

3つの資料(視点)を関連付けながら、問いに対する考えを話し合い、ホワイトボードにまとめた。「根拠を基に考える」「キーワードで書く」ことで、書くことではなく、対話が活発になるようにした。



【資料2: ジグソー活動の様子】

- クロストーク:それぞれのグループの考えを交流する。  
各グループの共通点を整理しながら、3つの資料を関連付けながら、考えを深めることができた。



【資料3: 共通点を整理したボード】

ウ 終末

自分の「終わりの考え」を書き、「はじめの考え」と比較することで、学びを自覚することができた。

⑤ 公開授業

第9学年2組 単元名「いにしへの心を受け継ぐ」(モデル授業指導案参照)

## (2) プログラミング教育

### ① ねらい

- 飯塚市プログラミング教育モデルプランを基に、失敗の中から改善ポイントを見つけ、最適な手順を探すなどの活動を通して、プログラミング的思考力、イノベーション能力の向上を図る。(飯塚市プログラミング教育モデルプラン <http://www.ict-iizuka.com>)
- Society5.0に向けた先進的なプログラミング教育として、仮想空間と現実空間の連携の仕組みを理解し、プログラミングの失敗や改善から多くを学ばせ、将来の経済発展と社会課題の解決を両立する人間中心の社会づくりができる資質・能力の育成を図る。

### ② 概要

#### ア 飯塚市とソフトバンクの提携

飯塚市は、プログラミング教育に係る教育環境の充実や、ロボットと共生する社会で活躍する人材の育成を目指し、ソフトバンクと教育分野での連携に関する協定を結んでいる。本校にも、小学部・中学部1台ずつの「Pepper」が配置されている。

#### イ 穂波東校のプログラミング教育

現在、穂波東校では全学年を対象に、発達段階に応じたプログラミング教育に取り組んでいる。

#### ウ Pepper の活用

ボックス型の言語（ロボブロック）を使い画面の中のPepperを動かしている。  
Micro:bitとPepperをインターネットで連携させた授業を行っている。

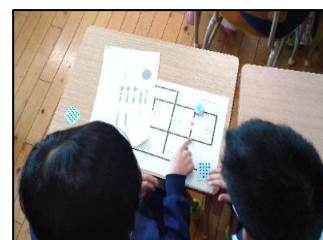
### ③ 区分ごとの目標と取組

期	前期	中期	後期
目標	基本操作を身につけ、写真や動画を基に自分の考えを発表できる。	文書及び表等の作成や資料の検索ができ、資料をもとに自分の考えを説明できる。	コンピュータやモバイル端末の基本的操作を身につけ、情報を適切に選択・評価・編集して報告や発表に利用できる。
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンプラグド教材（ルビィのぼうけん等）</li> <li>・タンジブル教材（オゾロボット等）</li> <li>・ボックス型プログラミング教材（スクラッチ：Scratch）</li> </ul> ※発達段階に合わせてコンピュータを使わずに学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボックス型プログラミング教材（ロボブロック：Robo Blocks）</li> <li>・ロボット（Pepper）</li> </ul> ※ボックス型言語を使い、実際のロボット等を目的通りに動かす学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IoTチャレンジ教材（Make Code・ロボブロック）</li> <li>・双方向性のあるコンテンツのプログラミング教材（プログル技術）</li> </ul> ※ロボブロック、Make Codeのプログラムを理解しながら、IoT体験する学習を行う。

#### ④ 実際

##### ア 前期授業(アンプラグド教材を活用した授業)

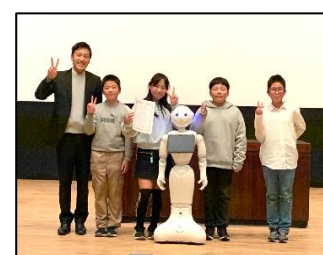
飯塚市から派遣されるICT研究指導員と連携し、1年生ではルビィのぼうけん、2年生ではビスケット、3年生ではオゾボット、4年生ではスクラッチに取り組んでいる。発達段階に合わせて、低学年では、コンピュータを使用しないプログラミング学習にも取り組んでいる。



【資料1：オゾボットに取り組む3年生】

##### イ 中期授業(ロボブロックとPepperを活用した学習)

5年生と6年生ではロボブロックとPepperを活用したプログラミング学習を行っている。令和3年度には、第5回飯塚市プログラミングコンテストに参加し、おすすめの本の紹介や、図書館でのイベントを知らせるPepperを発表した。初出場ながら、金賞を受賞した。



【資料2：プログラミングコンテスト】

##### ウ 後期授業(「PepperとMicro:bit」「プログル技術」を活用した授業)

中学部では、「IoTチャレンジ教材(Make Codeとロボブロック)」でSociety5.0の学びを行ったり、双方向性のあるコンテンツのプログラミング教材(プログル技術)でロボブロック、Make Codeのプログラムを理解したりしながら、IoTを体験する学習を行っている。3年間を見通し、7年生からプログラミングの基礎を学習している。



【資料3：7年生技術科授業の様子】

#### 【年間計画】

期日	内容		
	前期	中期	後期
1学期	ICT研究指導員との打ち合わせ (月1回) 基礎的な操作の学習	ICT研究指導員との打ち合わせ (月1回) 基礎的な操作の学習	ICT研究指導員との打ち合わせ (月1回) 基礎的な操作の学習
2学期	ICT研究指導員との打ち合わせ (月1回) 基礎的な操作・課題の設定	ICT研究指導員との打ち合わせ (月1回) 基礎的な操作・課題の設定	デジタル作品の作成 (カレンダー制作)
3学期	ICT研究指導員との打ち合わせ (月1回) 探求課題の解決	ICT研究指導員との打ち合わせ (月1回) 探求課題の解決・発表 プログラミング基礎(7年技術科)	ボックス型プログラム (Micro:bit・Pepper活用) プログル技術・コンテンツの活用

#### ⑤ 公開授業

第7学年1組 技術・家庭科 単元名「プログラムによる計測・制御」  
(モデル授業指導案参照)

### (3) ICT教育

#### ① ねらい

ICTを効果的に活用し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に個別最適化された学びを実現する。

「授業スタンダード」の各段階において、ICTを効果的に活用する。

#### ② 概要

##### ア 一斉学習での活用

電子黒板や児童生徒の学習用タブレット端末に、画像、動画などを拡大して提示、書き込みをしながら効果的に課題提示をすることができる。また、動画・アニメーション・音声などを含む指導者用デジタル教科書・教材を提示することで、子どもたちの興味・関心を高める。

##### イ 協働学習での活用

教師が提示した学習課題に応じて、インターネット等で情報を収集しながら、自分の考えをつくる。その際教師は、一人一人の反応や考えを即時に把握しながら、双方向での授業を行う。また、学習支援ソフトの「思考ツール」等を活用し、多様な考え方をグループ内で共有しながら、自分自身の課題に対する答えを練り上げる。そして、学習課題に対するグループの考えや、個人の考えをまとめ、電子黒板等でプレゼンテーションする。

##### ウ 個別学習での活用

多様な個性に応じて、よりきめ細かな対応を行う。また、個々の学習の習熟度合いや誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材を活用し、自分のペースで学習を行うことで、しっかりと理解しながら、知識や技能を習得することができる。

#### ③ 活用の分類とアプリ・ICT例

期	一斉学習	協働学習	個別学習
効果	効果的な提示・説明 興味関心の喚起 学習活動の焦点化 学習課題に対する理解の深化 等	思考力、表現力の育成 多様なものの見方 新たな表現や考えへの気づき 考えの共有 活発な意見交流 等	制作過程の振り返り 個人のペースにあった取組 技能の習得・向上 情報収集力の育成 等
アプリ ICT例	・電子黒板 ・デジタル教科書 ・動画コンテンツ等	・クラスルーム ・カメラ ・ドライブ ・ドキュメント ・スライド ・Gmail ・デジタル教科書 ・ミーティング	・カメラ ・端末用学習ドリル ・Gmail ・ミーティング ・シュミレーション機能 ・動画コンテンツ ・クラスルーム

#### ④ 情報モラルに関する系統表

1・2年生	3・4年生	5・6年生	中学部
決められた時間やきまりを守って機器を使うことができる。	ネット上には信頼できる情報だけではないことを理解することができる。	情報には自他の権利があることを理解し、正しい情報かを判断して収集することができる。	著作権や知的財産の保護の必要性や情報発信者としての責任を理解し、利用場面に応じて適正に活動することができる。

#### ⑤ 実際

##### ア 前期授業(一斉学習でのICTを活用した授業)

3年生算数「表とグラフ」の学習において、電子黒板を活用した。

導入では、2年生の学習内容を確認した。既習事項を基に本時の課題に取り組む姿が見られた。

また、2種類のグラフを比較する場面においては、同じところ・ちがうところを見つけ、電子黒板の資料を示しながら、意見を発表することができた。

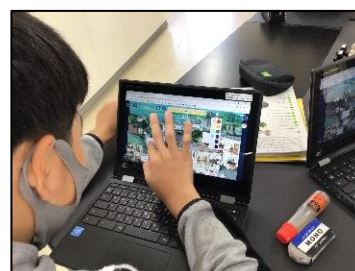


【資料1：電子黒板で既習を確認する児童】

##### イ 中期授業(協働学習でのICTを活用した授業)

6年生理科「月の形と太陽」の学習で、「どうして月の見える形が変化するのだろうか」という課題について、協調学習を行った。

エキスパート活動においては、実験等で分かった内容を基にジャムボードを使って班の考えをまとめた。また、クロストークでは、ロイロノートを活用することで、各班の考えを共有し、活発に意見交流することができた。



【資料2：タブレットで学習する児童】

##### ウ 後期授業(個別学習でのICTを活用した授業)

中学部では、5教科(国・数・社・理・英)の帯学習を帰りの会前の10分間に設定している(チャレンジタイム)。タブレットドリル(東京書籍)を活用し、個に応じて、「たしかめ・チャレンジ・フォローアップ」の3種類のプリントに取り組んでいる。教師は各生徒の学習結果を把握し、授業づくりや個別指導につなげている。



【資料3：タブレットドリルに取り組む生徒】

## (4) 英語教育

### ① ねらい

- 学習指導要領（外国語活動・外国語編）では、小学校中学年では「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」、高学年では「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」、中学校では「コミュニケーションを図る資質・能力」の育成が目標として掲げられている。小学校までの学習の成果を、中学校教育に円滑に接続し、目指す資質・能力を育成する。
- 飯塚市がめざす教育「本物志向・未来志向のひとづくり」に基づく、小学校3、4年生への「ALT派遣」、小学校5、6年生における「オンライン英会話」「外国語専科制」の導入を通して、「話す・聞く」の基礎的な力を身に付けることで英語教育の充実と中学部への円滑な接続を図る。

### ② 概要

#### ア C-L Time

小学部外国語活動及び外国語科の授業に中学生が参加し、一緒に英語活動を行う中で、中学生は小学生に活動のモデルを示す。この活動を通して、中学生は、小学生のモデルとして、目的意識をもって英語によるコミュニケーションを行うことができ、小学生は、中学生の姿を見ることにより、英語学習に対する意欲を高めるとともに、中学生に対して、尊敬の気持ちを抱くことができる。

#### イ ALT派遣による学習

3・4年生には、飯塚市より年間6回のALTが派遣されている。外国人留学生や外国での生活経験がある日本人等と、外国語による「聞くこと」「話すこと」等の言語活動を通して、楽しくコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成している。

#### ウ オンライン英会話

5・6年生は、年間20回「オンライン英会話」をカリキュラム（飯塚市教育委員会が作成）に位置づけ、実施している。「オンライン英会話」は、フィリピンのセブ島の講師と1回25分間マンツーマンで英会話を行っており、児童にとって、「英語を使って相手に伝える必然性」のある学習となっている。

#### エ ティームティーチングによる授業

中学部では、指導方法工夫改善を活用したティームティーチングを行っている。年間指導計画に基づき、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成を図り、オールイングリッシュによる授業を目標に指導を進めている。

### ③ 各期の目標と取組

期	前期	中期	後期
目標	コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成	コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成	コミュニケーションを図る資質・能力の育成
取組	・C-L Time ・ALT派遣による学習	・C-L Time ・オンライン英会話 ・外国語専科(5・6年)	・C-L Time ・チームティーチング

### ④ 実際

#### ア 前期授業(C-L Time)

3年生「自己紹介をしよう」の学習において8年生が、自己紹介をするモデルとなり、自己紹介をする際のポイントを教えた。

生徒が、相手を見て、伝わる声の大きさとモデルを示すことで、児童も同様に自己紹介をする姿が見られた。



【資料1：C-L Timeの様子】

#### イ 中期授業(オンライン英会話)

6年生「We have Children's Day in May.」の学習において、年中行事や学校行事について、いつあるかを尋ねたり答えたりする活動を行った。オンラインで繋がった講師と積極的にコミュニケーションを取る姿が見られた。



【資料2：オンライン英会話の様子】

#### ウ 中期授業(外国語専科)

令和4年度より、市内の5・6年生の外国語科は、担任ではなく外国語専科教員が授業を行っている。専門知識と指導力を発揮し、中学校での外国語科につながる授業が行われている。



【資料3：外国語専科教員による授業】

#### エ 後期授業(チームティーチングによる授業)

8・9年生においては、ディベート、英作文などの学習において、分割授業を行っている。少人数による学習では、きめ細やかな指導のもと、英語活動が行うことができている。



【資料4：生徒のデモンストレーション】



## (5) 異学年交流（穂波東校 C-L Time）

### ① ねらい

穂波東校が小中一貫教育を通して目指す児童生徒像は、「上級生は下級生の手本となり、下級生は上級生を手本とし、互いに係わり合い、学び合い、高め合う児童生徒」である。異学年交流は、この児童生徒像の育成に迫ることを主たるねらいとしている。

異学年交流では、上級生は「手本」となり、下級生を教えたり、手助けしたりする。このことで、上級生は自らの成長を自覚し、自己有用感や自尊感情を高める。一方、下級生は生徒を「手本」とし、上級生から指導や支援を受けることで、個々にその資質・能力をはっきすることができるようになるとともに、上級生の姿からモデル像を形成する。

### ② 概要

穂波東校では開校以来、様々な異学年交流を開発してきた（「Ⅲ 穂波東校：教育活動の実際【実践編】」参照）。それらを分類すると、「授業内での異学年交流」と「授業外での異学年交流」に大別することができる。

いずれの場合も、上級生が先生役となり、下級生の学習活動に対して支援や助言等を行っていく。

### ③ 各期の目標と取組

期	前期	中期	後期
目標	上級生を手本とし、個々にその資質・能力を発揮し、上級生の姿からモデル像を形成する	上級生を手本にモデル像を形成するとともに下級生の手本となることで自らの成長を自覚し、自己有用感や自尊感情を高める	上級生として自らの成長を自覚し、自己有用感や自尊感情を高める
取組	外国語活動 (S) 折鶴づくり (S)	外国語活動 (T) 外国語科 (S) 折鶴づくり (T)	外国語科 (T) 折鶴づくり (T)
	かけ算九九 (S) 作品づくり (S)	かけ算九九 (T) 作品づくり (S・T)	かけ算九九 (T) 作品づくり (T)

※上記表内の T は教える側（先生役）、S は習う側

### ④ 実際

#### ア 授業内での異学年交流

穂波東校では、授業内での異学年交流の時間を「C-L Time」と呼んでいる。

「C-L Time」とは「Co-Learning Time」の略であり、「協働して学ぶ」という意味である。

「C-L Time」では、上級生が先生役となり下級生に対して「教科の学習」において支援等を行う。穂波東校では、これまでに「英会話の学習」等で異学年交流を実施し

た。

交流の組み合わせとしては、「後期の生徒（先生役）」と「中期の児童（生徒役）」との間で行うものや、「後期の児童（先生役）」と「前期の児童（生徒役）」で行うものがある。



【8年生と5年生による  
「C-L Time」（英会話の学習）】



【8年生と3年生による  
「C-L Time」（英会話の学習）】

この他には、平和学習において「6年生から9年生までの児童生徒」が「1年生から4年生までの児童」に折鶴づくりをマンツーマンで教える「C-L Time」等も実施した。

## イ 授業外での異学年交流

穂波東校では、教職員の創意工夫により、昼休み等の時間帯を利用した異学年交流も実施している。

例えば、中学部のボランティアの生徒が先生役となり、昼休みに小学部2年生の「かけ算九九の暗唱」を聞き、その評価や指導を行う「かけ算九九ボランティア」や、美術部の生徒たちが希望する小学生を受け入れながら文化発表会等に向けた作品をともに作る「美術部員と小学生による作品づくり」等がある。



【「かけ算九九」ボランティア】



【美術部員と小学生による作品づくり】

## ⑤ 公開授業：3年と8年によるC-L Time（英会話の学習）

第3学年1組 外国語活動 「What do you like?」（モデル授業指導案参照）

第8学年3組 外国語科 「High Tech Nature」（モデル授業指導案参照）

## (6) キャリア教育(『スチューデント・シティ』、『ファイナンス・パーク』)

『スチューデント・シティ』、『ファイナンス・パーク』(※公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する学習プログラム)とは、キャリア教育の学習プログラムを体験できる飯塚市役所穂波庁舎(以降:穂波庁舎)内の施設に行き、「企業の活動」「生活とお金の関係」「銀行の役割」等を体験的に学習する教育プログラムである。対象は小学5年生と中学7年生で、5年生の学習プログラムを『スチューデント・シティ』、7年生は『ファイナンス・パーク』という。

### ① ねらい

#### ア 『経済体験学習:スチューデント・シティ』(5年生)

穂波庁舎施設内に「街」(店舗・事業所等)を再現し、この「街」で子ども達が実際に働く体験を行い、「社会と自分との関わり」、「経済の仕組み」、「お金とは何か」、「仕事とは何か」など、社会は仕事を通じて支えあい成立しているという社会の仕組みや、経済の働きを学ぶことができるようにする。

#### イ 『生活設計体験学習:ファイナンス・パーク』(7年生)

学んだことを単なる知識の蓄積として終わらせるのではなく、その知識を自分のものとして「実際に使える」よう、「自ら考え・意思決定し・行動に移す場」として学習を行う。具体的には、年齢や家族構成、年収などを設定し、将来設計をする中で、商品やサービスの購入・契約などを体験し、「情報を適切に活用する力」や「生活設計能力」などを育成する。

### ② 概要

#### ア 『経済体験学習:スチューデント・シティ』

「街」の中の会社で経営者の立場として商品の販売や営業を行ったり、消費者の立場として計画的に物を買ったりするという活動を交互に体験する。同僚である仲間達と協力、初めての「仕事」にチャレンジし、なぜ失敗したか、うまくいった理由は何かを「仕事」から学ぶ。また、税の仕組みや会社同士のつながり、収入と利益・給与・支出の関係なども学習する。

#### イ 『生活設計体験学習:ファイナンス・パーク』

あらかじめ設定された(例えば、30歳、既婚、子ども一人、年収650万円など)一人の大人として行動し、その人の収入に応じて月々の家賃・食費・被服費・娯楽費・交通費・投資・預金などのお金(家計の収入や支出)に関する「意思決定」を行い、自らの関心事や希望するライフスタイル等に基づいて将来の進路を体験的に考える学習を行う。

### ③ 区分ごとの目標と取組

区分	5 学年	7 学年
目標	将来の生活設計に必要な職業や金融についての理解を深めさせ、職業体験や金融体験等を通して社会におけるそれぞれの意欲や重要性について学ぶ能力を身につけさせる。	将来への希望や目標をもち、自己の在り方・生き方について深く考え、将来なりたい自己に向かって進路計画を立てて実行しようとする態度や能力を身につけさせる。
取組	経済体験学習プログラム 『スチューデント・シティ』	生活設計体験学習プログラム 『ファイナンス・パーク』

### ④ 実際

体験型学習プログラム『スチューデント・シティ』『ファイナンス・パーク』は事前学習、体験学習、事後学習の3つの学習から構成されている。

事前学習では体験活動を行うために必要な基礎的な知識を学ぶ。『スチューデント・シティ』では「仕事をする意味」や「仕事選びと会社の仕組み」、「価格やコスト、利益の関係」、「ビジネスプラン作り」などを学習する。また、『ファイナンス・パーク』では、「収入と支出のバランス」や「家庭におけるお金の使いみち」、「賢い生活費の立て方」などを学習する。

体験学習は、実際に近い「街」を再現した体験学習施設で行う。

事後学習は、体験からわかったことや今後の学習に生かしていきたいこと等についてまとめる。

#### 【年間計画】

期	5 年生	7 年生
4月 ～ 6月	学習プログラムの確認	学習プログラムの確認
10月 ～ 12月	事前学習 ①必要な物と欲しい物について ②仕事をする意味について ③電子マネーの使い方 ④銀行の機能について ⑤銀行ローンの仕組みと計算方法 ⑥価格の決め方	事前学習 ①生活費を分類する ②クレジットカードについて ③金利（利子）について ④生活費の計画の立て方 ⑤⑥ファイナンス・パークでの活動をグループで練習する
1月	体験学習 スチューデント・シティ	体験学習 ファイナンス・パーク
2月	事後学習 スチューデント・シティを振り返って	事後学習 ファイナンス・パークを振り返って

### ⑤ 公開授業

第5学年3組 総合的な学習の時間

単元名「経済体験学習：スチューデント・シティ」（モデル授業指導案参照）



## 【 参 考 文 献 】

- 福岡県教育委員会、「福岡県小中一貫教育の手引き」、平成 31 年 3 月  
※Web 上に掲載されています。
- 福岡県教育委員会、「活力ある学校運営の手引き」、平成 31 年 3 月  
※Web 上に掲載されています。
- 国立教育政策研究所、「国研ライブラリー 小中一貫 事例編」、東洋館出版社、  
2016.6.20
- 文部科学省小中一貫教育制度研究会、「Q & A小中一貫教育～改定学校教育法に基づ  
く取組のポイント～」、ぎょうせい、2016.10.20
- 天笠 茂【監修】、「公立小中で創る一貫教育—4・3・2のカリキュラムが拓く新しい  
学び」、ぎょうせい、2005.11.1
- 天笠 茂【監修】、「呉市の教育改革 小中一貫教育のマネジメント」、ぎょうせい、  
2011.1.20



# モデル授業指導案

- 異学年交流による英語教育 (C-L Time)
  - 第3学年外国語活動「What do you like?」
  - 第8学年外国語科「High-Tech Nature」
- キャリア教育：経済体験学習
  - 第5学年総合的な学習の時間「スチューデント・シティ」
- 穂波東校授業スタンダード
  - 第6学年算数科「立体の体積」
- プログラミング教育
  - 第7学年技術・家庭科「プログラムによる計測・制御」
- 協調学習（知識構成型ジグソー法）
  - 第9学年国語科「いにしえの心を訪ねる」



### 第3学年1組 外国語活動学習指導案

指導者 中村 公香

#### 1 単元名 What do you like? (C-L Time)

#### 2 単元観

- 本単元は、何が好きかを尋ねたり答えたりする活動を通して、それらの表現に慣れ親しむとともに、相手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ることが主なねらいである。児童はこれまでに、あいさつや簡単な自己紹介の仕方、数を表す表現等を学習し、それらの表現に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力を身に付けている。その上で、相手や自分のことに関して尋ねたり答えたりする表現について学習し、相手に伝わるように工夫しながらやり取りを行う力を身に付けることは、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力を育成する上で大変意義がある。また、本単元で学習した内容は、第4学年のお気に入りの場所を紹介する学習につながるとともに、高学年で学習する外国語科「その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うこと」とつながるため、尋ねたり答えたりする体験を通して達成感を味わわせることは、大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第3学年「I like blue.」(文部科学省)
現在	⇒本単元「What do you like?」(文部科学省)
未来	⇒第4学年「This is my favorite place.」(文部科学省)

#### 3 単元の目標

- 身の回りの物の言い方や、何が好きか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことができる。(知識及び技能)
- 身の回りの物の言い方から、日本語と英語の音声の違いに気付くことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 自分や相手が好きな物について、相手に伝わるように工夫して、積極的に尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。(学びに向かう力、人間性等)

#### 4 単元指導計画(全5時間)

時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
1	○身の回りにある物や、好きな物の尋ね方を知る。	◇日本語と英語の音声の違いに気付いている。 【思・判・表】
2	○何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	◇何が好きかを尋ねたり答えたりしている。 【知・技】
4	○相手に伝わるように工夫して何が好きかを尋ねたり答えたりする。	◇友だちに伝わるように工夫しながら、好きな物を尋ねたり答えたりしている。【学びに向かう力】
5	●相手に伝わるように工夫しながら自己紹介をする。(CL-time)	◇相手に伝わるように工夫しながら積極的にやり取りをしている。【学びに向かう力】


#### 5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: ランチルーム

##### (1) 主眼

- 自分や相手の事柄について、お互いに自分が好きなものを紹介し合う活動を通して、相手に伝わるように、工夫しながら尋ねたり答えたりすることができる。

##### (2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 前時を振り返り、本時学習のめあてを確認する。	「つかむ」段階 ○小学生が中学生を手本にしたいと思えるように、中学生が前時の学習のやりとりをデモンストレーションする場を設定する。	3
	2 教師のデモンストレーションを見て、見通しを持つ。	「見通す」段階 ○小学生、中学生に本時のゴールイメージを持たせるために、教師が役割分担をしてデモンストレーションをする。 ○相手に伝わるような工夫(アイコンタクト、グッドボイス、リアクション)の大切さを確認する。	2

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開【ひとり学び・学び合ひ】</p>	<p>めあて 相手に伝わるようにくふうしながら、自分の好きなものをしょうかいしよう。</p>		
	<p>3 中学生とやりとりをしながら名刺を作る。</p> <p><b>【自己紹介の流れ】</b>  A: Hello. What's your name?  B: My name is Yurie. (名前)  Y U R I E, Yurie. (つづり)  A: OK, Yurie.  What color do you like? (好きな色)  B: I like red.  A: Oh, red. It's nice color.  What animals do you like? (好きな動物)  B: I like dogs.  A: Oh, really? I like dogs too! / Me too!  B: See you.  A: See you.</p> <p><b>【小学生用の名刺カード】</b></p> <p>My name is _____  I like _____ .  I like  .  See you !</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○名刺カード作成の際、1枚目を中学生に作成してもらうことで、小学生が名刺を作る手順や自分の名前のつづりを確認できるようにする。</li> <li>○2枚目以降、小学生が自分で記入する際、名前のつづりをゆっくり言いながら書かせるよう中学生に指示する。</li> <li>○名前のつづりを中学生に伝える時は、相手に分かりやすくはっきり、ゆっくり伝えるように小学生に確認する。</li> <li>○小学生用の名刺カードは、好きな色は色鉛筆で塗らせ、好きな動物はイラストから選択できるように作成しておく。</li> <li>○デモンストレーションをしながら名刺カードを作成することで、名刺交換時のやり取りが何度も繰り返し練習できるようにする。</li> <li>○名刺カードの記入が難しい児童のフォローをする。</li> </ul>	<p>1 2</p>
	<p>4 中学生と一緒に自己紹介と名刺交換の練習をする。</p> <p>5 中学生と自己紹介をし合いながら、名刺を交換する。</p>	<p><b>「学び合い」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し練習をさせ、小学生の良いところを随時中学生から賞賛してもらうことで、自信をもってやり取りができるようにする。</li> <li>○中学生が座席を移動し、自己紹介の相手が交代できるようにする。</li> <li>○できるだけ多くの自己紹介ができるように自己紹介が苦手な児童のフォローをする。</li> <li>○活動中、アイコンタクト、グッドボイス、リアクションを意識して活動ができている児童を紹介することで、相手に伝わるような工夫の大切さが再確認できるようにする。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">◇相手に伝わるように工夫しながら、積極的にやり取りをしている。 (行動観察、ワークシート)</p>	<p>8</p> <p>1 5</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末【まとめる】</p>	<p>6 活動の振り返りを行う。  (1) 中学生は小学生の自己紹介を評価し、良かった点と改善できる点を発表する。  (2) 小学生の代表者は本時学習の感想を発表する。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相手に伝わるよう工夫する姿や積極的にコミュニケーションする態度など、小学生のよかったところを中学生に称賛してもらう。</li> </ul>	<p>5</p>
<p>まとめ 表じょうやジェスチャーをくふうすると、相手に伝わりやすい。</p> <p>(3) リフレクションをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生から賞賛してもらったことや自分が相手に伝わるよう工夫したことを書かせる。</li> </ul>		



## 第8学年3組 英語科学習指導案

指導者 桑岡 有吏恵

### 1 単元名 Program4 High-Tech Nature (C-L Time)

### 2 単元観

- 本単元は、自分の好きなものについて、比較級や最上級の表現を用いて、互いに伝え合ったり理由とともに答えたりする活動を通して、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにすることが主なねらいである。

生徒はこれまでに、自分のことを表現したり、自分の好きな人物を紹介し合ったりすることを学習し、自分の考えやその理由を即興で話そうとする力を身に付けている。

その上で、身近なものを比べた内容について聞き取ったり書いたりすることを学習し、自分の考えを相手に分かってもらえるように、自分の好きなものについてインタビューしたり理由とともに答えたりする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第9学年で学習する「1つのテーマに対して自分の意見を伝え議論するディベート活動」とつながるため、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第3学年「I like blue.」(文部科学省)
現在	⇒本単元「Program4 High-Tech Nature」SUNSHINE 開隆堂
未来	⇒第9学年「Program1 Steps1」SUNSHINE 開隆堂

### 3 単元の目標

- 比較級、最上級、as～asなどの意味や働きを理解し、聞き取ったり書いたりすることができる。(知識及び技能)
- 自分の好きなものについて互いに伝え合ったり理由とともに答えたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 会話を継続するために必要な自分の課題を振り返り、改善しようとし、主体的に話すことができる。(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全9時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりする。	◇比較級などの意味や働きを理解し、聞き取ったり書いたりしている。 【知・技】
	2	○自分が「最も～だ」と思うものについて、聞き取ったり書いたりする。	◇最上級などの意味や働きを理解し、聞き取ったり書いたりしている。 【知・技】
	3	○身長や身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりする。	◇as～asなどの意味や働きを理解し、身長や身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりしている。 【知・技】
二	4-6	○教科書の会話文の読解をする。	◇会話文の概要や要点を捉えている。 【思・判・表】
	7	○写真や絵を見て、会話文の内容を相手に示しながら概要を話す。	◇簡単な語句や文を用いて、即興で概要を話している。【思・判・表】
	8	●自己紹介活動を行う。 <C-L Time>	◇会話を続けるために必要なことを考え、主体的にアドバイスを行っている。 【主体的】
	9	○自分の好きなものを伝え合う活動をする。	◇自分の好きなものについて伝え合ったり理由とともに即興で話したりしている。【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: ランチルーム

(1) 主眼

- 自己紹介活動を通して、会話を続けるために必要なことを考え、主体的にアドバイスを行うことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 前時を振り返り、本時学習のめあてを確認する。	「つかむ」段階 ○小学生が手本にしたいと思えるように、前時の学習のやりとりをデモンストレーションする場を設定する。	3
	2 教師のデモンストレーションを見て、見通しをもつ。	「見通す」段階 ○本時のゴールイメージをもたせ、小学生がめあてを達成できるように、どのようなアドバイスが必要かを確認する。 ○R・C・Q(リピートまたはリアクション・コメント・質問)やアイコンタクト、グッドボイスの大切さを確認する。	2
めあて 会話を続けるために必要なことを小学生にアドバイスしながら、自分の発表で工夫する点を見つけよう。			
展開 【一人学び・学び合い】	3 小学生とやりとりをしながら名刺を作る。  【自己紹介の流れ】 A: Hello. What's your name? B: My name is Yurie. Y U R I E, Yurie. A: OK, Yurie. What color do you like? B: I like red. Because~ A: Oh, red. It's nice color. What animals do you like? B: I like dogs. Because~ A: Oh, really? I like dogs too! B: See you. A: See you.	「一人学び」の段階 ○小学生とのコミュニケーションでは、ゆっくり話したり相づちを打ったり等の工夫が必要だということを確認する。 ○R・C・Qを意識して会話を続けさせる。 ○次時の目標である、理由も添えて話すことを確認する。	1 2
	4 小学生と一緒に自己紹介と名刺交換の練習を行う。	「学び合い」の段階 ○小学生が自信をもってやりとりができるように、繰り返し練習をし、中学生がアドバイスをする場を設定する。	8
	5 小学生と自己紹介を行い、名刺交換をする。	○座席を移動し、自己紹介の相手が交代できるようにする。 ○活動中、アイコンタクト、グッドボイス、リアクションを意識して活動ができていた小学生を紹介することで、相手に伝わるような工夫の大切さが再確認できるようにする。	1 5
終末 【まとめる】	6 活動の振り返りを行う。 (1) 小学生の自己紹介を評価し、良かった点と改善できる点を発表する。	「まとめる」段階 ○相手に伝わるよう工夫する姿や積極的にコミュニケーションする態度など、小学生の良かったところを称賛する。	5
	まとめ 相づちを打ったり、好きな理由を伝えたりする一文を添える工夫が必要。  (2) リフレクションをする。	◇会話を続けるために必要なことを考え、主体的にアドバイスを行っている。(記述)  ○自分がアドバイスできたことや次時の発表の改善点などを書かせる。	

## 第5学年3組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 梶原 直人

### 1 単元名 経済体験学習：スチューデント・シティ

### 2 単元観

○ 本単元は、限られた資金・資材を効果的に運用する手段を考え、それらの中から自己の知識や情報に基づいて正しく判断・選択・決定する力を身に付け、自己の意思で進路選択や将来設計を行う資質・能力を育成することが主なねらいである。

児童（生徒）はこれまでに、将来の夢を叶えるために必要な事を学習し、将来と今を結び付けて考える力を身に付けている。

その上で、社会の仕組みや経済の働き、お金や仕事について学習し、自由経済社会を自らの判断で生き抜く力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年で学習する生活設計体験学習とつながるため、将来の生活設計や社会の仕組みについて理解を深める上で大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第4学年「思いを知り、思いを伝えよう（二分の一成人式）」
現在	⇒本単元「経済体験学習：スチューデント・シティ」※
未来	⇒第7学年「生活設計体験学習：ファイナンス・パーク」※

※公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する経済体験学習です。

### 3 単元の目標

- 社会のしくみや経済の働きなどを具体的に理解することができる。（知識及び技能）
- 市民としての自覚を持ち意思決定することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 社会との関わり方を意識して将来設計しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全15時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○人はなぜ生きていくことができるのか考える。	◇社会と自分との関わりを考えることができる。【思・判・表】
	2	○生活とお金の関係、銀行の役割について考える。	◇銀行の役割を説明することができる。【思・判・表】
	3	○色々な仕事の役割と責任について考える。	◇共存社会の仕組みと仕事をする意義を理解することができる【知識・理解】
	4	○価格・コスト・利益の関係を考える。	◇モノやサービスの値段の決め方を理解することができる。【知識・理解】
	5	●ビジネスプラン作りの練習を行う。	◇会社の仕組みについて理解することができる。【知識・理解】
	6	○自分の会社のビジネスプランを作る。	◇ビジネスプランの作り方を理解することができる。【知識・理解】
	7	○スチューデント・シティへ行く準備をする。	◇仕事内容や電子マネーの使い方を考えることができる。【思・判・表】
二	8 ～ 13	○スチューデント・シティで体験活動を行う。	◇市民としての自覚を持ち、体験活動を行う事ができる。【主体的】
三	14	○振り返りを行う。	◇学習したことをもとに、自分の将来について考えることができる。

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：5年3組教室

(1) 主眼

- スチューデント・シティでの体験活動について、会社が営業する上で必要な費用や利益の情報を整理・分析してまとめることを通して、会社の仕組みを理解することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の課題をつかむ。 (1) 固定費や変動費を確認し、会社に必要な費用を考える。 (2) 本時で会社のビジネスプランを作ることを見通す。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○会社に必要な費用を考え、銀行から借りるお金を計算するという課題をつかむために、会社には様々な費用がかかることを確認させる。 <b>「見通す」段階</b> ○ビジネスプランの作成方法に見通しが持てるように、前時の学習内容を想起させる。	10
	めあて 会社のビジネスプランを作成し、会社の仕組みを考えよう。		10
展開 【一人学び・学び合い】	2 会社のビジネスプランを作成する。 (1) ロイロノートを活用し、ビジネスプランの作成方法を確認する。 (2) ビジネスプランの作成方法を確認しながら、会社のビジネスプランを作成する。	<b>「一人学び」の段階</b> ○一人でビジネスプランの作成方法がわかるように、一つ一つ何をすればよいかの手順をロイロノートで確認できるようにし、机間巡視しながら進捗を確認する。	15
	3 同じ会社でグループに分かれ、ビジネスプランを完成させる。	<b>「学び合い」の段階</b> ○それぞれがビジネスプランを作成できるように、意見を交流させる。 ◇会社のビジネスプランを作成することができる。(学習プリント)	15
終末 【まとめる】	4 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習をまとめる。	<b>「まとめる」段階</b> ○会社の仕組みを理解するために、費用と銀行の関係をまとめる。	10
	まとめ 会社には、人件費や固定費など様々な費用がかかり、銀行からお金を借りることで、その費用を払う。 (2) 振り返りシートにリフレクションを記入する。		

## 第6学年1組 算数科学習指導案

指導者 岩倉 麻子

### 1 単元名 立体の体積（穂波東校授業スタンダード）

### 2 単元観

- 本単元は、角柱や円柱の体積について、必要な部分の長さを測り、計算によって体積を求めるという考えを基に、新しい公式を導きだし、それをを用いることができるようにすることが主なねらいである。

児童はこれまでに、第5学年において立方体や直方体の体積を求める方法を学習し、単位となる大きさに着目し、図形の大きさを決定付ける辺の長さを基に計算で求める力を身に付けている。

その上で、考察の対象となる空間図形と既習の図形の面積の求め方を関連付けて図形の見方を働かせ、体積の求め方を考えたり、公式を導いたりすることについて学習する。角柱や円柱の体積について計算による体積の求め方を考えるとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高める力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年で学習する柱体、錐体、球の体積とつながるため、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第5学年「体積」（啓林館）
現在	⇒本単元「立体の体積」（啓林館）
未来	⇒第7学年「立体の体積と表面積」（啓林館）

### 3 単元の目標

- 柱体の体積の求め方とその公式を理解し、公式を使って柱体の体積を求めたり、複合図形の体積を求めたりすることができる。 （知識及び技能）
- 直方体の体積の求め方を基に、角柱や円柱の体積の求め方やその公式、また、複合図形の体積の求め方を考えることができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- 直方体の体積の学習を生かし、柱体の体積の学習に進んで取り組もうとする。 （学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全5時間）


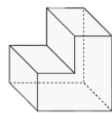
次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○未習の複合図形を提示し、既習の立体図形の体積を振り返り、単元の課題をつかむ。	◇底面積を用いて、直方体の体積の公式を見直そうとしている。 <span style="float: right;">【主体的】</span>
	2	○三角柱の体積が（底面積）×（高さ）で求められること理解し、それをもとに角柱の体積の求め方を考える。	◇（底面積）×（高さ）で角柱の体積を求めることができる。 <span style="float: right;">【知・技】</span>
	3	○角柱の体積の求め方をもとに円柱の体積の求め方を考える。	◇（底面積）×（高さ）で円柱の体積を求めることができる。 <span style="float: right;">【知・技】</span>
	4	●柱体や本単元で提示する複合図形を柱体と捉えて、（底面積）×（高さ）で体積を求めることができる。	◇底面がどのような形でも、柱体や本単元で提示する複合図形の体積は（底面積）×（高さ）で求められることに気付く。 <span style="float: right;">【思・判・表】</span>
二	5	○基本のたしかめ、練習問題を解く。	◇既習の学習を使って問題を解くことができる。 <span style="float: right;">【知・技】</span>

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 6年1組教室

(1) 主眼

- 立体の体積の求め方について、底面と高さに着目し、柱体と見ることができるかどうかを話し合う活動を通して、柱体であればどんな場合でも、体積は底面積と高さの積で求められることに気付くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 単元導入時で提示した複合図形を再度見て、体積を求めることができそうか考える。</p> <p>(2) どんなことに気を付ければ求められるのか確認する。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○1時に見たときには解けそうになかったケーキの体積が既習の内容を使えば解けそうであることに気付かせる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○問題を主体的に解けるようにするため、3つの図形はどれも柱体であることや、立体の体積が(底面積)×(高さ)で求められたこと、底面積の場所を確認する。</p>	7
	めあて いろいろな形のケーキの、およその体積を求めよう。		
展開【一人学び・学び合い】	<p>2 問題の解き方を考え、問題を解く。</p> <p>(1) 3つのケーキの中から1つを選び、体積を求める。(一人学び)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(2) 友達の考えと自分の考えを比較する。(グループ学び)</p> <p>(3) 3つのケーキの体積の求め方や気付いたことを交流する。(全体学び)</p> <p>(4) 最後に残った一つのケーキも(底面積)×(高さ)で求められるか考える。(全体学び)</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○意欲的に問題に向かえるように、ケーキを自己選択できるようにする。</p> <p>○自分の考えがつくれるよう、既習のノートや掲示物を見たり、不安なところを隣の友だちに確認したりしても良いことを伝える。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○自分の考えを深められるよう、友だちと自分の意見を比べたり、自分の分からなかったところを聞いたりするよう促す。</p> <p>また、だれも求めているケーキの体積があれば、協力して求めるよう促す。</p> <p>○見方を変えると、柱体になることに気付かせるため、模型を用意する。</p> <p>◇底面がどのような形でも、柱体の体積は(底面積)×(高さ)で求められることに気付く。 (ノート・ロイロノート)</p>	5  10 8 8
終末【まとめる】	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習をまとめる。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○底面がどこになるのかを考えると体積が求められたことに気付かせるために、何を一番に考えたのか尋ねる。</p>	7
	まとめ 立体の底面がどこかを考え、柱体であれば底面積×高さで体積を求めることができる。		
	<p>(2) リフレクションを行い、どんなことが分かったのか、どのように考えたのかなどを書く。</p>	<p>○自分の振り返りが行えるように、5つの観点を提示する。</p>	

## 第7学年1組 技術・家庭科（技術分野）学習指導案

指導者 切通 智行

### 1 題材名 『プログラムによる計測・制御（マイコンボード micro:bit と Pepper を用いて）』

### 2 題材観

- 本単元は、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決」を通して、生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見いだして課題を設定する力、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想する力の育成や「計測・制御システム」を理解させることを主なねらいとしている。

生徒はこれまでに、小学校の総合的な学習の時間において、ボックス型プログラミングを学んでいる。また、中学校の技術科の授業においては、コンピュータの仕組み、デジタル化、情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティ技術、インターネットの特性と情報モラルについて既習している。あわせて文字入力、インターネット活用などの基本的な情報リテラシーも備えている。

その上で、本題材において、センサ付きマイコンボード micro:bit と人型ロボット Pepper を用いたプログラミングでの課題解決を学ぶことは、来る超スマート化社会“Society 5.0”を生き抜く資質・能力を身につけることが求められる生徒たちにとって大変意義深いと考える。

また、本題材で学習した内容は、高等学校で学習するプログラム言語を活用したより深い学びにおいて、将来の社会に必要な情報リテラシー、プログラミング的思考力の育成、さらには21世紀型能力であるイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力の育成を図る学びへとつながり大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第6学年 総合的な学習の時間 「ボックス型プログラミング」
現在	第7学年 技術科 「双方向性のあるコンテンツによる問題解決」（開隆堂）
未来	高等学校 情報科 「HTML、CSS言語等を使ったプログラミング」

### 3 題材の目標

- 考案・制作したプログラミングの仕組みや効果を説明し、修正・改善することができる。（思・判・表）
- 課題解決型プログラミングを通して、プログラミング的思考を身に付けることができる。（知・技）
- 社会の問題の解決に、IoTや人型ロボットを活用したプログラミングを考えることで、プログラミングやIoTがもっている社会や生活への有効性を理解している。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 題材指導計画（全8時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○身の回りにあるプログラムを利用した計測・制御を行っているものについて考え、情報の流れについて理解する。	◇プログラムに関心・意欲を持ち、作成・活用しようとしている。【主体的】
	2	○プログラムとは、「あらかじめ決められた手順を命令の形式で書かれたもの」であることを知る。また、フローチャートの使われている図形の意味や基本的な構造を知る。	◇計測・制御の仕組みについて理解し、身に付けている。【知・技】
	3 4	○人型ロボット pepeer の起動や制御ソフト RoboBlocks との接続の方法を復習し、簡単なプログラムを作る。	◇目的や条件に応じたプログラムを作成できる。【知・技】
二	5	○身近な社会の課題を考える。 ○テーマ「社会の問題を解決する人型ロボット：センサを活用して」に沿ったプログラムを作るための準備を行う。	◇目的や条件に応じたプログラムを作成できる。【知・技】
	6	●テーマをもとに課題を解決するプログラミングを制作し、micro:bit と Pepper をつないだプログラムをつくる。	◇目的や条件に応じて処理の手順を工夫・改良して表現している。【思・判・表】
	7	○制作したプログラムの発表を行う。 ○プログラムの質疑・意見交流を行う。	◇制作したプログラムについて発表し、修正、改善ができる。【思・判・表】
	8	○意見や気付いた点を用いてプログラムを修正し発表する。 ○プログラムやIoTの有効性を確認し、まとめる。	◇プログラミングやIoTの社会や生活への有効性を理解している。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於:3階パソコン室

(1) 主眼

- プログラミングについて、課題解決するために試行錯誤や交流活動を通して、身近な生活問題を改善解決できる micro:bit と Pepper をつないだ IoT プログラムを制作できる。

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の課題を知り、めあてを確認する。 (1)課題について知る。 (2) 解決方法や結果について見通す。	<b>「つかむ」段階</b> ・ Society5.0 や IoT についてイメージをもたせるために、動画を見せる。 <b>「見通す」段階</b> ・ 前時を振り返り、ボックス型プログラムやプログラム完成までの手順を確認する。	10
	めあて: micro:bit と Pepper をつないだ IoT プログラムをつくってみよう		20
展開 【一人学び・学び合い】	2 プログラムを工夫してつくる。 ・ 事前課題の学習プリントの記述をもとに RoboBlocks でプログラミングを行う。  ・ プログラムをためす。	<b>「一人学び」の段階</b> ・ センサの変数値によって Pepper が違った動きをするプログラムをつくらせるために、micro:bit のセンサ(内蔵:光センサ、温度センサ、外付け:距離センサ)のどれかを使わせる。 ・ micro:bit 側のセンサプログラム及びブルーームは、事前に教師が作成し pepper の動作を行わせる。 ・ RoboBlocks センサ対応基礎プログラム(前時作成分)を活用させる。 ※PC 教室外のセンサ値は予想値とする。 ◇IoT を活用し課題解決を意識した作品となっているか。【思・判・表】(発言内容、プリント記述内容、プログラム内容(保存分))	10
	3 1人ずつ3名がプログラムを発表しあい、互いの改善等に気づく。 ・ プログラムの仕組みや効果、工夫したところを説明する。 ・ 各3分以内で発表する。 ・ 発表者の良かった点、改善点を記録する。	<b>「学び合い」の段階</b> ・ 次時にお互いの発表に対する質疑応答を行わせるためメモをとらせる。 ・ 電子黒板、画面送信を活用し発表させる。 ・ プログラムの説明後、動作を確認するため、Pepper のそばで発表を行わせる。	10
終末 【まとめる】	4 本時のまとめを行う。 ・ 学習プリントに本時の感想を記入する。 ・ 次回の発表と改善作業の見通しをもつ。	<b>「まとめる」段階</b> ・ 制作したプログラムを生徒フォルダ内に保存させる。 ・ 友人の発表や自らのプログラミングをもとに、IoT の将来の活用方法や有効性についてもまとめで考えさせる。	10
まとめ:RoboBlocks でプログラムを考案し、試行錯誤してプログラミングすることで、micro:bit と Pepper をつないだ IoT プログラムをつくることできる			



## 第9学年2組 国語科学習指導案

指導者 平尾 智美

### 1 単元名 いにしへの心を受け継ぐ（協調学習）

### 2 単元観

○ 本単元は、歴史的な背景などに注意して古典を読んだり古典の一節を引用して使ったりする学習活動を通して、長い年月を経てもなお現代に残るものの見方や考え方を知り、古典を学ぶ意義と価値を見出すことが主なねらいである。

生徒はこれまでに、小学校第6学年で親しみやすい古文の文章を音読し、言葉の響きやリズムを捉えたり、中学校第2学年で現代語訳を手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を知り、現代との比較を通して新たな発見をしたりして、古典に親しむ態度を身に付けている。

その上で、作品の歴史的背景などについて学習し、長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使い、古典に一層親しむ態度を育てるとともに、中学校三年間の古典の学びの集大成として、これまでの学習内容を振り返り、古典学習の意義と価値を見出すことは、我が国の伝統や文化を継承・発展させることにつながるため大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は高等学校で学習する「古典探求」分野とつながり、古典を主体的に読み深めることを通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う上で大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	小学校第6学年「いにしへの言葉に学ぶ」（東京書籍） 第2学年「いにしへの心を訪ねる」（光村図書）
現在	⇒本単元「いにしへの心を受け継ぐ」（光村図書）
未来	⇒高等学校「古典探求」

### 3 単元の目標

- 歴史的背景などに注意して古典を読んだり、古典の一節を引用して使ったりして、作品の内容を具体的に捉えることができる。（知識及び技能）
- 我が国の伝統や文化に触れることで、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 言葉がもつ価値を認識し、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全6時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○単元の学習の見通しをもつ。 【単元を貫く言語活動】 「いにしへの心を受け継ぐ」とはどのようなことか？	◇既習事項を振り返り、単元名に着目し、単元の学習の見通しをもつことができる。【主体的】【知・技】
	2	○「古今和歌集」の「仮名序」の内容を捉えることができる。	◇比喩や対句表現、係り結びや文末表現などに着目し、内容を理解している。【知・技】
	3	○三大和歌集「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の和歌を読み比べ、作者の心情や情景についてまとめる。	◇歴史的背景と表現の特徴に着目し、和歌の内容を読み取ることができる。 【思・判・表】
二	4	○「おくのほそ道」1を読み、芭蕉の旅に対する思いを読み取る。	◇現代語訳を参考にし、芭蕉の古人に対する憧れや旅支度の様子から、旅への思いを読み取ることができる。【知・技】
	5	○「おくのほそ道」2を読み、芭蕉が各地で感じた思いを読み取る。	◇脚注の歴史的背景を参考にし、芭蕉が何を見て何を感じたのかを読み取ることができる。【思・判・表】
	6	●3年間の古典の学習を振り返り、古典を学習する意義と古典の価値を考える。 「いにしへの心を受け継ぐ」とはどのようなことか？	◇3年間の古典の学習内容を比較し、これからも残したいと思うものの見方や考え方等を書くことができる。【主体的】【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 9年2組教室

(1) 主眼

- 3年間の古典の学習内容を比較する活動を通して、日本の伝統や文化について、自分の生活と照らし合わせて考え、古典を学習する意義と古典の価値について自分の考えを書くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 本時の学習課題を知り、めあてを確認する。 (1) 課題について知る。 「いにしへの心を受け継ぐとは？」 (2) 解決方法や結果について見通す。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○課題を確認できるように、単元名の意味を問う。 <b>「見通す」段階</b> ○考えた内容を活動につなげることができるように、小学校から中学校までの古典の既習事項を振り返る場を設定する。	10
展開【一人学び・学び合い】	めあて 「いにしへの心を受け継ぐ」とはどういうことなのか、考えよう。		
	2 【エキスパート活動】 古典の学習内容について振り返り、自分が思う古典のよさについて個人で考える。 ・エキスパートA: 1年次学習内容(『竹取物語』、故事成語) ・エキスパートB: 2年次学習内容(『枕草子』、漢詩) ・エキスパートC: 3年次学習内容(『論語』、和歌、『おくのほそ道』)	<b>「一人学び」の段階</b> ○生徒が既習事項を振り返り、古典の学習価値(よさ)を考えることができるように、各学年で使用した教科書を各グループのタブレットに提示する。 ○ジグソー活動で考えを共有しやすいように、考えたことをジャムボードに打ち込むよう指示する。	7
	3 【ジグソー活動】 古典の学習価値について、グループで話し合う。 【話し合いの視点】 ・その時代特有の価値観や考え方 ・時代が変わっても変わらない考え方	<b>「学び合い」の段階</b> ○それぞれの考えを比較・分類し、古典の学習価値について考察できるように、話し合いの視点を確認する。	10
	4 【クロストーク】 (1) 全体で考え、調べた内容や自分の考えを整理する。 ・古典のよさをどのように受け継いでいくか。 (2) 個人の考えを付加・修正する。	○個人の考えが整理できるように、各班の発表からキーワードを板書する。  ◇日本の伝統文化としての価値や時代が変わっても変わらない考え方を学び、自分の考え方や生活に生かしていくことが受け継いでいくということ。(記述)	10
終末【まとめる】	4 本時の学習をまとめ、振り返る。 (1) 学習内容についてまとめる。  まとめ 伝統文化の価値や時代が変わっても変わらない考え方を学び、自分の生き方に生かしていくということだと分かった。 (2) 学習方法について振り返る。 ・比較、関連付け	<b>「まとめる」段階</b>  ○3年間の古典の学習を通して、伝統文化のよさと受け継ぎ方を考えることができたことを確認する。	8



MEMO








# 巻末資料






- 学習規律（小・中学部）
- 穂波東校 chrome book 活用年間実践プラン
- 穂波東校 パソコンのきまり
- 「チャレンジ授業」実施計画
- 「かけ算九九ボランティア」実施計画
- 穂波東校アクション3
- 穂波東校引継ぎシート
- 遊びマップ
- 関連資料の紹介
  - ・ 小中一貫教育のすゝめ
  - ・ 穂波東校小中一貫だより




## 学しゅうのすすめかた（1・2年）

<b>つかむ</b> 	きょうの学しゅうでは、 ・こんなことを考えよう。 ・こんなことをかいつしよう。
<b>みとおす</b> 	・「～をつかえば」「～とかんがえれば」 わかりそうだ。
<b>ひとり学び</b> 	・じぶんは、こうおもう。 ・じぶんなら、こんなほうほうでといてみる。
<b>学びあい</b> 	・〇〇だとかんがえたのは、なぜ。 ・〇〇だとかんがえたわけは、・・・。 ・友だちのかんがえと、じぶんのかんがえは、どこがちがうのかな。 ・友だちのいいかんがえをとりいれよう。
<b>まとめる</b> 	きょうの学しゅうでは、 ・こんなことがわかった。 ・こんなほうほうでとくことができた。 ・これはどうなるのかなあ。

## 学習のすすめかた（3・4年）

<b>つかむ</b> 	今日の学習では、 ・こんなことを考えよう。 ・こんなことをかいつしよう。
<b>みとおす</b> 	・「～を使えば」「～と考えれば」 わかりそうだ。
<b>ひとり学び</b> 	・自分は、こう考える。 ・自分なら、こんなほうほうでといてみる。
<b>学びあい</b> 	・〇〇だと考えたのは、なぜ。 ・〇〇だと考えたわけは、・・・。 ・友だちの考えと自分の考えは、どこがちがうのかな。 ・友だちのいい考えをとり入れよう。
<b>まとめる</b> 	今日の学習では、 ・こんなことがわかった。 ・こうやって考えたらわかった。 ・こんなほうほうでとくことができた。 ・これはどうなるのかなあ。

## 学習の進め方（5・6・7年）

<b>つかむ</b> 	今日の学習では、 ・こんなことを考えよう。 ・こんなことを解決しよう。
<b>見通す</b> 	・「～を使えば」「～と考えれば」 解決できそうだ。
<b>一人学び</b> 	・自分は、こう考える。 ・自分なら、こんな方法で解いてみる。
<b>学び合い</b> 	・〇〇だと考えたのは、なぜ。 ・〇〇だと考えた理由は、・・・。 ・友達の考えと自分の考えは、どのように違うのか。 ・友だちのいい考えを取り入れよう。
<b>まとめる</b> 	今日の学習では、 ・～を理解できた。 ・～の方法で課題解決ができた。 ・学んだことを使って、問題を解いてみよう。

## 学習の進め方（8・9年）

<b>つかむ</b> 	今日の学習では、 ・こんなことを考えよう。 ・こんなことを解決しよう。
<b>見通す</b> 	・「～の方法で／～を使って考えれば、 〇〇のような結果になるのでは」 これまで学習したことを使って解決できそうだ。
<b>一人学び</b> 	・自分は、こう考える。 ・自分なら、こんな方法で解いてみる。
<b>学び合い</b> 	・〇〇だと考えたのは、なぜ。 ・〇〇だと考えた理由は、・・・。 ・友だちの考えと自分の考えは、どのように違うのか。 ・友だちのいい考えを取り入れよう。
<b>まとめる</b> 	今日の学習では、 ・～を理解できた。 ・～の方法で課題解決ができた。 ・学んだことを使って、問題を解いてみよう。

項目	児童	教師
チャイム席 (移動)	<p>○チャイムの鳴りはじめと同時に号令をかけられるように、時計を見て早めに着席する。</p> <p>○移動教室の場合は、授業終了後速やかに お茶、トイレを済ませ、学習道具を持って教室の後ろ(児童数によっては廊下の教室側)に整列する。</p> <p>○移動中は私語をせず静かに歩く。</p> <p>○他のクラスや学年に迷惑をかけないように気を付ける。</p>	<p>○授業開始時刻には黒板前に立つ。</p> <p>○チャイムの鳴りはじめと同時に号令をかけるよう促す。</p> <p>○移動教室は可能な限り引率する。</p> <p>○中学部との校時の違いを考慮して移動する。</p>
号 令 あいさつ	<p>○始まりはチャイムの鳴りはじめと同時に、終わりは教師の合図で号令をかける。</p> <p>&lt;1～4年生&gt; 始め…「姿勢」「礼」 教師の顔を見て「はじめます。」と言う。 腰から曲げて礼をする。</p> <p>終わり…「姿勢」「礼」 教師の顔を見て「おわります。」と言う。 腰から曲げて礼をする。</p> <p>&lt;5、6年生&gt; 始め…「起立」 椅子を入れて「気を付け」「礼」 教師の顔を見て「お願いします。」と言う。 腰から曲げて礼をする。「着席」</p> <p>終わり…「起立」 椅子を入れて「気を付け」「礼」 教師の顔を見て 「ありがとうございました。」と言う。 腰から曲げて礼をする。</p>	<p>○姿勢や声の大きさ、あいさつの態度、礼の仕方など全員が正しくできるまで指導する。</p> <p>○号令に合わせ、児童の見本になるようにあいさつをする。</p>
学習準備	<p>○筆箱の中身 鉛筆(Bか2Bで飾りや柄のないもの・時間割の本数) 赤・青鉛筆(高学年はキャップ式ペンも可) 定規(透明なもの、曲がらないもの) 消しゴム(白又は黒、においが付いてないもの)</p> <p>○終わりの号令をしたらそのまま次の時間の準備をし、教科書やノートを出した状態で休憩する。</p> <p>※チャイム後に学習道具を出すのはチャイム席遅れとする。</p>	<p>○定期的に筆箱をチェックし、学習に不要なものを持ってきていないか確かめる。</p> <p>○家庭学習に必要なもの以外は持ち帰らせない。</p> <p>○全員の授業準備ができるよう必ず確認する。できていない児童については細かに指導する。</p>

机上環境	<p>○机の上に落書きをしないこと。</p> <p>○コンパス、彫刻刀等で机を傷つけないこと。</p> <p>○机の上には学習に必要な物だけを置くようにすること。</p>	<p>○常に清潔で整理された机で学習に取り組むよう指導する。</p> <p>○机は私物ではなく学校備品であることを伝え、物を大切にすることを育てる。</p>
学習環境	<p>○黒板は、休み時間のうちに係が消す。</p> <p>○机の横には図書袋と必要なものだけをかけるようにし、机間はできるだけあけておく。</p>	<p>○転倒防止のため机間をあけるよう努める。</p> <p>(辞典や絵の具、習字道具置き場の工夫)</p>
姿勢 態度	<p>○授業時の姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞くときは体ごと話者に向ける。</li> <li>・授業中は「ぐう、ぺったん、ぴん」をくずさないようにする。</li> </ul> <p>○私語や手遊びをしない。質問や発言は教師の指示のもと挙手をしておこなう。</p> <p>○授業中に鉛筆は削らない。ただし、赤青鉛筆に関しては必要な時のみ削ってよいものとする。</p>	<p>○正しい姿勢を保たせることを心がける。</p> <p>○発言者が教師であれ児童であれ、必ず話者に体に向けるよう指導する。</p> <p>○勝手な発言をさせず、教師が正しい言葉づかいをし、発言、話を聞く態度を明確にする。</p>
離席	<p>○教師の指示なしに席を離れてはいけない。</p>	<p>○授業中にトイレに行くことは基本的には認めない。</p> <p>※体調や発達段階を考慮する。また、休み時間が確保できなかった時は担任判断で行かせてよい。</p>
体調が悪く なったら	<p>○休み時間中のケガや体調不良は必ず担任に告げてから保健室に行く。</p> <p>※緊急時の場合は友達に言づける。</p> <p>一人で歩くことができる場合は友達を誘わない。</p> <p>○授業中に体調が悪くなった場合は挙手をし、担任に相談する。</p>	<p>○授業中に保健室に行かせる場合。</p> <p>※前日、当日の体調や、保護者からの連絡、本人の様子を考慮して最終的には担任が判断してよい。</p> <p>※児童の付き添いは付けず、付き添いが必要な場合は担任が職員室か保健室に連絡する。</p>
提出物	<p>○毎日決まった宿題は必ず朝の会までに提出する。</p> <p>○提出物の期限を守る。</p>	<p>○宿題忘れゼロを目指し、徹底して意識付けをする。</p>
自学	<p>○家庭学習時間の目安</p> <p>1年生…20分、2年生…30分</p> <p>3年生…40分、4年生…50分</p> <p>5年生…60分、6年生…70分</p>	<p>○5、6年生については、自学の習慣化を図る。</p> <p>○1～4年生については自主的にしてきた児童を評価する。</p>

★学習意欲を高め、時間意識を持たせるため、授業時間の厳守、休み時間の確保に努めましょう。

o n と o f f をはっきりさせ、集中力向上を目指しましょう。

# 飯塚市立小中一貫校穂波東校 穂波東中学校 授業規律

令和4年4月 学びの充実係

項目	生徒心得	教師確認事項
チャイム席 (移動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チャイムの鳴りはじめと同時にあいさつができるように時計を見て早めに着席すること。</li> <li>○移動教室の場合は、次の教室で休み時間を過ごすことを心がけ、早めに移動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チャイムが鳴る前に教室に赴き、声をかける。</li> <li>○チャイムの鳴りはじめと同時にあいさつができるようにする。</li> </ul>
号令 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○号令はチャイムの鳴りはじめと同時にかける。</li> <li>「姿勢」「起立」「礼」生徒「お願いします！」</li> <li>教師「お願いします！」「着席」</li> <li>○「姿勢」・・・姿勢を正す。</li> <li>「起立」・・・すばやく起立し、いすを入れる。机に手をつかない。</li> <li>「礼」・・・上体を約30度倒してはっきりとした大きな声で「お願いします。」「ありがとうございました。」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつ前の姿勢やあいさつの態度など、不十分な点はやり直しも含めて指導する。</li> </ul>
学習準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆箱の中身 <ul style="list-style-type: none"> <li>・HB以上の濃さの鉛筆又はシャープペンシル2本以上</li> <li>・消しゴム1個以上</li> <li>・赤ペン、青ペン、ネームペン</li> <li>・定規、のり</li> </ul> </li> <li>※その他学習に必要な筆記用具等</li> <li>○必要な学習用具を忘れずに準備し、他人に決して借りないこと。</li> <li>☆ルール：チャイム後に、ロッカーなどに学習用具を取りに行った場合はチャイム席遅れとなる。</li> <li>(持ってきていても、授業開始前にしっかり準備しておかないと忘れ物かチャイム席遅れになる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な学習準備ができていない生徒に対しては見逃さず、学級担任とも協力し、早い段階で解決させる。</li> <li>○基本的な学習用具についても忘れ物としてカウントし、持つてくる指導を行う。</li> </ul>
机上環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机の上に落書きをしないこと。</li> <li>○机の上には授業に必要なものだけを置くこと。(休み時間内に準備しておくこと)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机の落書きを見つけたら、指導して消させる。授業時間に無理なら学級担任と協力して消させる。(消す)</li> <li>○授業のみならず、朝読書・朝の会・帰りの会時に机の上にカバンを置かない指導等、学級でもあらゆる機会に机上環境を指導する。</li> <li>○教室が汚い場合は、ゴミを拾わせるなどしてきれいになった環境で授業を開始する。</li> </ul>
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○黒板は、休み時間のうちに係が消しておくこと。</li> <li>○机間通路にカバンなどを置かないこと。</li> <li>○ゴミに気づいたら拾い、快適な学習環境づくりに努力すること。</li> </ul>	
服装	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別な措置がない限り、体育以外は標準服で授業を受けること。</li> <li>○着こなしその他は、生活ルールに準じる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボタンをあげない。</li> <li>・髪を結ぶ。</li> <li>・袖や裾をまくらない。</li> <li>・タオルを掛けない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「服装の乱れは学ぶ姿勢の乱れ」・・・必ず指導してから授業を始める。</li> </ul>
姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時の姿勢は、椅子に深く腰をかけ背筋を伸ばす。</li> <li>足組み、肘付き、うつ伏せ、椅子の脚を浮かせる、机の外に足を出す、横向きなどをしないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢の乱れは学習効果を下げます。しつこく注意し、正させる。</li> </ul>
態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○私語をつつしみ、質問や発言は教師の説明後に、挙手をして行うこと。</li> <li>○丁寧な言葉づかいを心がけること。</li> <li>○手遊びその他授業に関係のない行動をしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒に勝手な発言をさせない。</li> <li>教師側が正しい言葉遣いを率先して行い、発言・発表・視聴態度やルールを明確にする。</li> </ul>
離席	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の指示無しに席を離れることは「離席」扱いとなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中にトイレに行くことは基本的に認めない。やむを得ない場合は「離席」としてカウントする。</li> </ul>
体調が悪くなった	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休み時間に保健室に行く場合は、必ず次の授業の先生に告げて行くこと。一人で歩くことができる場合は、友だちを誘わないこと。</li> <li>○授業中体調が悪くなった場合は挙手をし、教科担当の先生に事情を告げて保健室に行くこと。</li> <li>○保健室に行く場合は、保健室利用カードを持参すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中に体調不良を訴えた生徒については、必ず保健室利用カードに必要な事項を記入し、それを持たせて保健室に行かせる。その際、保健室(職員室)にインターホンで連絡する。</li> <li>○生徒の付き添いはつけない。付き添いが必要な状態の場合は、職員室に応援を求める。</li> </ul>
提出物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必ず期限までに必要なものを、必要な量・必要な状態で提出すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未提出生徒については、原則として締め切り日に残し、提出させる。</li> </ul>
自学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ステップアップノート(自学ノート) <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中も含め、原則毎日行うこと。</li> <li>・「1日を振り返って」を必ず毎日書くこと。</li> </ul> </li> <li>○中学生の家庭学習時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7年生：80分～、8年生：90分～、9年生：100分～</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ステップアップノート未提出者については、昼休みに行わせ、提出させる。(昼休み中に終わらない場合は放課後の指導も含む。)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間目に体育がある場合は、早めに登校し、8:25以前に着替えておくこと。</li> <li>○1時間目に教室を移動して行う教科(含体育)がある場合も、移動は朝の会終了後とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級担任または副担任は追い出しと戸締まり確認を行う。</li> <li>○体育のための着替えで8:25に席に着いていない場合も遅刻扱いとする。</li> <li>○朝の会は時間通りに終了し、移動教室があっても1時間目の開始に間に合うようにする。</li> </ul>



# 穂波東校 Chromebook活用年間実践プラン (Google Workspace for Education を中心に)

## Chromebook活用のねらい

Chromebook を活用することを通して、子どもたちの学び続けようとする意欲や豊かな創造性、様々な人と協働しながら、問題を解決する力などを育んでいく。

## Google Workspace for Education とは

Google が提供する教育支援ツール。オンライン上で文書処理・表計算処理・発表資料の作成、ビデオ対話等のソフトウェアが使用できる。

授業の活用はもちろん、家庭での活用も可能。同時に1つのデータを編集することができるため、協働学習を支援する優れたツールである。

## Workspace for Education 参考資料

Google Workspace for Education のアプリの基本操作方法など参考動画が一覧になっているサイト。

具体的な実践動画なども見ることができる。



学年	【Chromebook入門期】 Chromebookを知る		【Chromebook体験期】 Chromebookの操作が分かる		【Chromebook活用期】 Chromebookを活用できる		
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7・8・9年生
<b>クラスルーム</b> 	クラスルームに入ることができる。 【授業】	クラスルームに入り、選択肢の質問に答えることができる。 【授業】	クラスルームに入り、選択肢や記述式の質問に答えることができる。 【授業】	クラスルームに入り、選択肢や記述式の質問に答えることができる。 【授業】	クラスルームに入り、様々な課題を提出することができる。 【授業・宿題】	クラスルームに入り、様々な課題を提出することができる。 【授業・宿題】	クラスルームに入り、諸連絡や課題を確認したり、課題を提出したりすることができる。 【授業・宿題】
<b>フォーム</b> 	フォームの選択肢の質問に答えることができる。 【授業】	フォームの選択肢の質問に答えることができる。 【授業】	フォームの記述式の質問に答えることができる。 【授業・学活】	フォームの記述式の質問に答えることができる。 【授業・学活】	フォームの質問に答えたり、作成したりすることができる。 【授業・学活】	フォームの質問に答えたり、作成したりすることができる。 【授業・学活】	フォームの質問に答えたり、作成したりすることができる。 【授業・学活】
<b>スライド</b> 			スライド1枚に学んだことをポスターとしてまとめる。 【各教科・総合】	スライド1枚に学んだことをポスターとしてまとめる。 【各教科・総合】	自分が伝えたいことをスライドで発表することができる。 【各教科・総合】	自分が伝えたいことをスライドで発表することができる。 【各教科・総合】	必要な情報を収集し、スライドにまとめ、効果的に発表することができる。 【各教科・総合】
<b>ミーティング</b> 	教師がミーティングで映し出した校内の人と交流することができる。 【授業・行事】	教師がミーティングで映し出した校内の人と交流することができる。 【授業・行事】	教師がミーティングで映し出した人と交流することができる。 【授業・行事】	教師がミーティングで映し出した人と交流することができる。 【授業・行事】	ミーティングを効果的に活用して学習活動などを計画することができる。 【授業・宿題】	ミーティングを効果的に活用して学習活動などを計画することができる。 【授業・宿題】	ミーティングを効果的に活用して、オンライン授業等に利用することができる。 【授業・宿題】
<b>ドライブ</b> 			ドライブのデータを見ることができる。 【授業】	ドライブに自分のデータを保存できる。 【授業】	マイドライブと共有ドライブを使い分けることができる。 【授業・宿題】	マイドライブと共有ドライブを使い分けることができる。 【授業・宿題】	マイドライブと共有ドライブを使い分けることができる。 【授業・宿題】
<b>その他(キーボードアドベンチャー、ロイロノート・ウゴトル・ジャムボード)</b> 	自宅や学校でキーボードアドベンチャーを大人と一緒に取り組める。 【授業・行事】	自宅や学校でキーボードアドベンチャーを大人と一緒に取り組める。 【授業・行事】	自宅や学校でキーボードアドベンチャーを自分で取り組める。 【授業・行事】 ロイロノートやジャムボードを使ってグループで考えを出し合うことができる。 【授業・行事】	自宅や学校でキーボードアドベンチャーを自分で取り組める。 【授業・行事】 ロイロノートやジャムボードを使ってグループで考えを出し合うことができる。 【授業・行事】	自宅や学校でキーボードアドベンチャーを計画的に学ぶことができる。 【授業・行事】 ロイロノートやジャムボードを使ってグループや全体での交流を深めることができる。 【授業・行事】	自宅や学校でキーボードアドベンチャーを計画的に学ぶことができる。 【授業・行事】 ロイロノートやジャムボードを使ってグループや全体での交流を深めることができる。 【授業・行事】	デジタル教科書や多様なアプリを活用し、授業内容の復習や自主学習に役立てることができる。 【授業・自主学習】

# 穂波東校パソコンのきまり

令和4年 4月 作成

## ① 目的

- 学校で貸し出すパソコンは、学習活動のために使うことが目的です。学習に関わる以外に使ってはいけません。

## ② 使用するときの注意

- 学校や家庭以外で使用しない。
- こわしたり、なくしたりしないよう注意して使う。
- 持ったまま走ったり、地面に置いたりしない。
- 水をかけたり、熱いところの近くにパソコンを置いたりしない。
- パソコンのそばで、飲食をしない。
- 画面をタッチするときは、指でふれるか専用ペンを使うようにする。えんぴつやペンで画面にふれない。
- 学習に関係のない画像やサイトをみない。
- SNSへの書き込みや写真・動画の配信はしない。

## ③ 学校で使うとき

- パソコンを使う時は、先生の指示をよく聞く。
- 先生が認めたとき以外に使わない。
- パソコンを使った後は、決められた場所に保管する。

## ④ 健康のために

- パソコンを使用するときは、正しい姿勢で、近づきすぎないように気を付ける。
- 30分に一度は遠くの景色を見るなど、ときどき目を休ませる。

## ⑤ 安全な使用

- インターネットには制限がかけられていますが、もしあやしいサイトに入ってしまったときはすぐに画面を閉じ、先生に知らせる。

## ⑥ 個人情報

- 自分のパソコンを他人に貸したり、使わせたりしない。
- 自分のユーザーIDやパスワードを、他人に教えない。
- インターネット上に、自分や他人の個人情報（名前や住所、電話番号など）をあげない。

## ⑦ カメラでの撮影

- 先生が許可した時以外でカメラは使わない。
- カメラでだれかを撮影するときは、勝手に撮らず、必ず撮影する相手の許可を取る。

## ⑧ 設定の変更

- パソコンの設定を勝手に変えてはいけません。設定が変わって、授業が進められなくなることがあります。
  - Meetなどのオンライン学習では、背景をぼかしましょう。
- ※ Googleのホーム画面、矢印の色や大きさ、アプリの名前、キーボードのニックネームなども設定の変更になります。

## ⑨ データの保存

- 学校のパソコンで作ったデータやインターネットで取り込んだデータ（写真や動画など）は、学習活動で先生が許可したものだけ保存する。
- ※ スクリーンショット・キャプチャも含まれます。

## ⑩ 故障、紛失、破損

- 学校で使用していて、パソコンが動かなくなったり、パソコンをなくしてしまったら、すぐに先生に知らせる。

## ⑪ 家庭で使うとき

- 家庭でパソコンの宿題が終わった後は、**タブレットドリル** **キーボード** **eライブラリ** **プログラミング** は進んで学習してよい。
- 兄弟間でパソコンの貸し借りはしない。
- 使用する時間は家の人と話し合い、長時間使用せず細かく休けいしながら使う。
- 就寝1時間前は使わない。
- 学校に持ってくるときは、家庭で十分充電しておく。
- 家庭に持ち帰ったときは、パソコンを家の人の目の届くところに置いておく。

※穂波東校パソコンのきまりが守れなかった場合、パソコンを使うことができなくなります。



# チャレンジ授業(出前授業)について

小中経営部会

## 1. ねらい

- 児童が中学部教員による授業を通して、教科の専門的なおもしろさや小中学習内容のつながりを感じ、中学部での学習に見通しをもつことで、小中接続の円滑化(中1ギャップの解消)を図る。
- 中学部教員が小学部高学年の実態を把握し、次年度以降の学習指導及び積極的生徒指導につなげるとともに、小学部教員が担当学年と中学部学習内容とのつながりを理解し、日常の学習指導を行えるようにする。

## 2. 実施方法

- 中学部教室に小学生が出向き、50分授業を体験する。  
(新型コロナウイルス感染状況により変更・中止する場合あり。)  
<変更の場合> 小学部教室に中学部教員を迎え、45分授業を体験する。
- (1) 実施時期: 小学部各教科の年間指導計画に基づいて通年で実施。
- (2) 授業内容: 小学部教員の要望(ニーズ)を検討し、中学部の学習内容で全教科実施。
- (3) 授業時数: 6年生(1時間×3学級)、5年生(1時間×3学級)  
※午前中に3クラス連続で授業を実施することを基本とする。  
※必要に応じて継続授業あり。

## 3. 取組内容

### 【事前の取組】

- (1) 小学部: 希望の教科・単元・実施時期を挙げる。  
《5月20日(金)までに小学部教務に提出》
- (2) 中学部: 小学部の希望を受けて、実施教科及び担当教員の決定  
《5月31日(火)までに中学部教務調整・決定》
- (3) 小学部実施学年担任と中学部授業者において学習活動と日時を検討し、決定する。  
《時間割作成上、授業を行う2週間前までに決定し中学部教務に連絡》
- (4) 準備  
小学部: 小学部児童の名札、特別に支援を要する児童の情報、事前指導  
中学部: 学習指導(略案)、その他授業に必要な教材・教具等

### 【事後の取組】

- ・ 今後の取組の改善を図るために、児童に対してアンケートを実施し、成果と課題を把握する。

令和4年度 チャレンジ授業予定

【5年】

教科	内容・単元	時期
国語	古文に親しむ 「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくの細道」	10月
数学(算数)	面積 (三角形・平行四辺形・台形・ひし形の面積をもとに)	11月
社会	日本の工業生産と貿易・運輸	11月
理科	物のとけ方	11月～12月
音楽	オーケストラのみりょく	6月
美術(図工)	顔・体のかき方	9月～10月前半
技術	プログラミング (Pepper)	2学期末
家庭	食べて元気! ご飯とみそ汁食事の役割と栄養バランス	10月～11月
保体	走り方・バトンパスの仕方	9月
英語	He is a music teacher (英語で有名人やアニメキャラの3ヒントクイズ など)	12月

【6年】

教科	内容・単元	時期
国語	古文「いにしえの言葉に学ぶ」	1月
数学(算数)	中学数学の導入	2月
社会	日本とつながりの深い国々	1月
理科	子どもが驚く実験	12月
音楽	合唱	2月
美術(図工)	版画	11月
技術	プログラミング	10月
家庭	中学家庭科の導入	3月
保体	リレー	9月
英語	かんたんな会話	10月

# かけ算九九ボランティアについて(令和3年度オンライン形式)

学びの充実係

## ○ねらい

(小)異学年交流を通して、かけ算九九2年生時完全習熟を図る。

(中)異学年交流を通して、上級学年としての態度を育成する。

## ○実施期間

11月29日(月)～12月17日(金)の3週間

月・水・金曜日の昼休み 13:20～13:40 (20分間) 計9回実施

## ○中学生ボランティア募集

11月15日(月)～19日(金)の1週間 中学部全学年に向けて募集をかける。

人数制限は設けないが、1回当たり18人(1クラスあたり6人×3クラス)のボランティアで実施する。

## ○実施方法

7～9年生 中学部パソコン室から2年生のタブレットにミートでつなぎ、オンラインで2年生の九九の暗唱を聞き、合否を伝える。1クラスあたり6人のボランティアが必要なので1回18人で実施できるよう、応募した中学生を割り当てる。

※ハウリング対策としてヘッドセットが必要

2年生 各教室の前方にタブレットを置いた机を6か所設置し、6グループに分かれて交代で九九を唱える。1グループにつきヘッドフォンを1台用意する。(配置図参照)

中学生から合否を伝えてもらい、合格した児童はかけ算九九シートに、自分で合格シールを貼る。

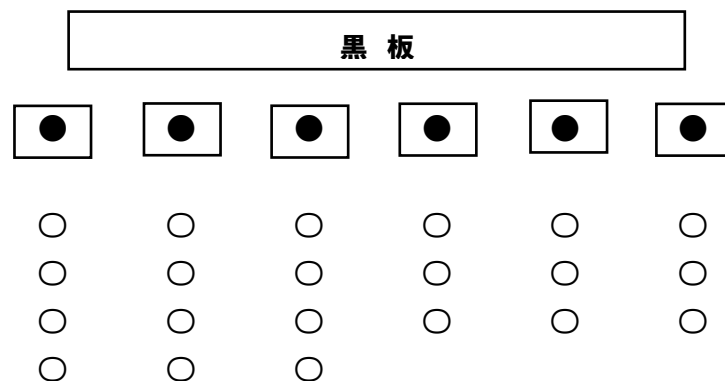
※準備物 かけ算九九シート(じゅんに・ぎゃくから・ばらばら)

合格シール

児童用タブレット 各クラス6台

ヘッドセット 各クラス6台

## 【教室配置図】



●…ヘッドフォン □●…タブレットを設置した机 合格シールを置いておく。

# 九九 ボランティア募集



小学部2年生では、かけ算九九の学習をしています。かけ算九九は、これからの算数・数学で必要なものです。2年生全員に覚えさせてやりたいと考えています。去年の2年生は、コロナウイルス感染拡大防止のため中学生の皆さんに九九を聞いてもらうことができませんでした。今年こそは2年生に九九をたくさん聞いてもらって練習をさせたいと思います。

そこで、昼休みの時間を使って、かけ算九九を聞いてくれる人を募集します。たくさんの参加をお待ちしています。

- 1 実施日時
- |     |                            |       |
|-----|----------------------------|-------|
| 第1週 | 11/29(月)、12/1(水)、12/3(金)   | } 計9回 |
| 第2週 | 12/6(月)、12/8(水)、12/10(金)   |       |
| 第3週 | 12/13(月)、12/15(水)、12/17(金) |       |
- 時間帯 13:20 ~ 13:40 (20分間)

- ※ 中学生の参加者は、中学部の行事や学年・学級を優先とする。(来られない日があっても可)
- ※ 1週ごとに18名の希望者を募ります。

- 2 実施場所
- |     |          |
|-----|----------|
| 中学生 | 中学部パソコン室 |
| 2年生 | 各教室      |



- 3 内容
- ① 13時20分に中学部パソコン室に集合する。
  - ② ミートを使い、オンラインでかけ算九九を聞く。
  - ③ 1つの段の順に 逆に パラパラにを2年生が言う。  
→ スラスラ言えたら合格をやり、ほめる！  
→ 途中で止まったり、言えなかったりしたら、励ます！

ぜひ参加を！  
希望者は

- 4 募集期間 11月15日(月)～11月19日(金)

※ 希望する人は、下の申込書にクラスと名前と希望週を書いて、担任の先生に提出してください。

切り取り線

年 組	名前	
	実施日	希望するところに○(複数選択可)
第1週	11/29(月)、12/1(水)、12/3(金)	
第2週	12/6(月)、12/8(水)、12/10(金)	
第3週	12/13(月)、12/15(水)、12/17(金)	

## 九九ボランティアの流れ（中学部）

- 1 タブレットとヘッドセットを接続する。
- 2 chrome book のカレンダーを開く。
- 3 自分が担当する「九九ボランティア」をタップし、meetに参加するを選ぶ。
- 4 2年生と繋がったら、笑顔であいさつをする。
- 5 2年生が「○の段、上から・下から・バラバラを言います。」  
と言うので、確認して九九を笑顔でうなずきながら聞く。
- 6 途中でつまずいたら、「惜しい、もう一回並んでね。」など  
声をかけて次の児童に代わってもらう。  
(後ろに7～8人並んでいるので、言い直しはさせないようにします。)
- 7 スラスラ言えたら、「よくできたね。頑張ったね。シールを貼ってね。」  
と声をかけて、次の児童と代わってもらう。

時間 13:20～13:40

**注意** マスクで顔の半分は2年生に見えません。  
常に笑顔で、うなずいたり、手でOKマークを作ったりして、  
2年生が安心して九九が言えるようにしましょう。

《すぐ、必ず、みんなができる》

## 穂波東校アクション3 ～不登校を減らす基本対応！～

### ステージ1 未然防止

朝	☆ 始業前に教室へ（8：20） 職朝での打ち合わせは最小限に→グループウェアの活用 どうしても間に合わない場合は、学年1名はフロアへ ☆ 朝の会で、欠席・遅刻・早退の確認（情報の共有） 黒板や授業記録簿（中学部）への記入
昼	☆ 児童生徒と一緒に給食 ☆ 積極的な言葉かけ
帰り	☆ 戸締まりは週直とともに、最後は教員で ☆ 明日への環境整備 黒板をきれいに消し、日付をかえる。 机・いすを並べる。

### ステージ2 早期発見・早期対応

1日目	☆ 欠席1日で、電話連絡 様子伺い、明日の時間割 など。
2日目	☆ 欠席2日目も連絡（電話もしくは訪問） 同時に当該生徒と関係のある児童生徒に連絡の依頼。
3日目	☆ 欠席3日で家庭訪問 本人・保護者と話す。届けもの など。

### ステージ3 継続的な支援

	☆ 支援チームの編成 週に1度は連絡もしくは訪問（様子伺い、届けもの など） ☆ 個人カルテの記入（ファイルサーバ） 家庭訪問の内容など、週に1度は更新。 ☆ 6・7年生職員による合同会議 情報交換および共有
--	---



不登校・配慮が必要な子対応「穂波東校引き継ぎシート」（個票）

作成日	R3年3月	作成者	
追記者			
小学校名	穂波東小学校	児童生徒名	
中学校名	穂波東中学校		

学級担任→	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計
出席しなければならない日数										
欠席日数										
遅刻										
早退										
不登校の有無（病休以外の欠席30日以上）										
別室登校の日数										

※不登校（欠席30日以上）、不登校兆候（欠席+遅刻・早退÷2が15日以上）や配慮が必要な児童生徒は、下の欄も記入する。

1 支援を継続する上での基本的な情報（※2年目以降は文末に記載学年を記してください）	
特記事項	①欠席や遅刻理由で多いこと  ②保護者の協力の有無 有（ ） 無（ ） ※保護者以外の協力者がいれば記入して下さい。（ ）  ③児童・生徒に関わる関係機関
	①家庭の状況（不登校の要因につながることや気になる家庭環境・変化、兄弟姉妹の状況など）  ②配慮事項（気を付けること、保護者や児童同士のトラブル、いじめなど）

2 取組（いつ、どこで、誰が、どのようなことをしたのか。）とその結果・要因等（※2年目以降は文末に記載学年を記入してください）	
特記事項	○

作成の時期 ①不登校兆候児童生徒は不登校兆候日数が15日になった段階や配慮が必要な子について作成する。  
 ②その他の児童生徒は修了式後上段の出欠遅刻等の数値を入力

不登校兆候（欠席+遅刻・早退÷2が15日以上の児童

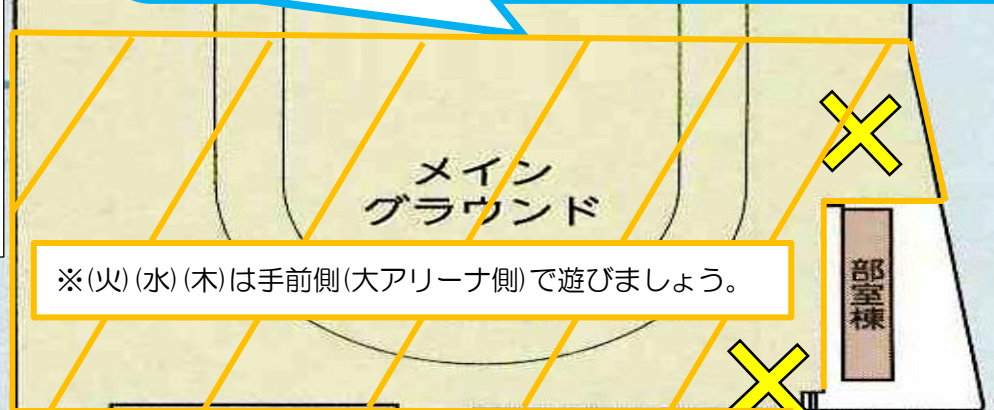
令和4年4月

# 穂波東校 遊びマップ

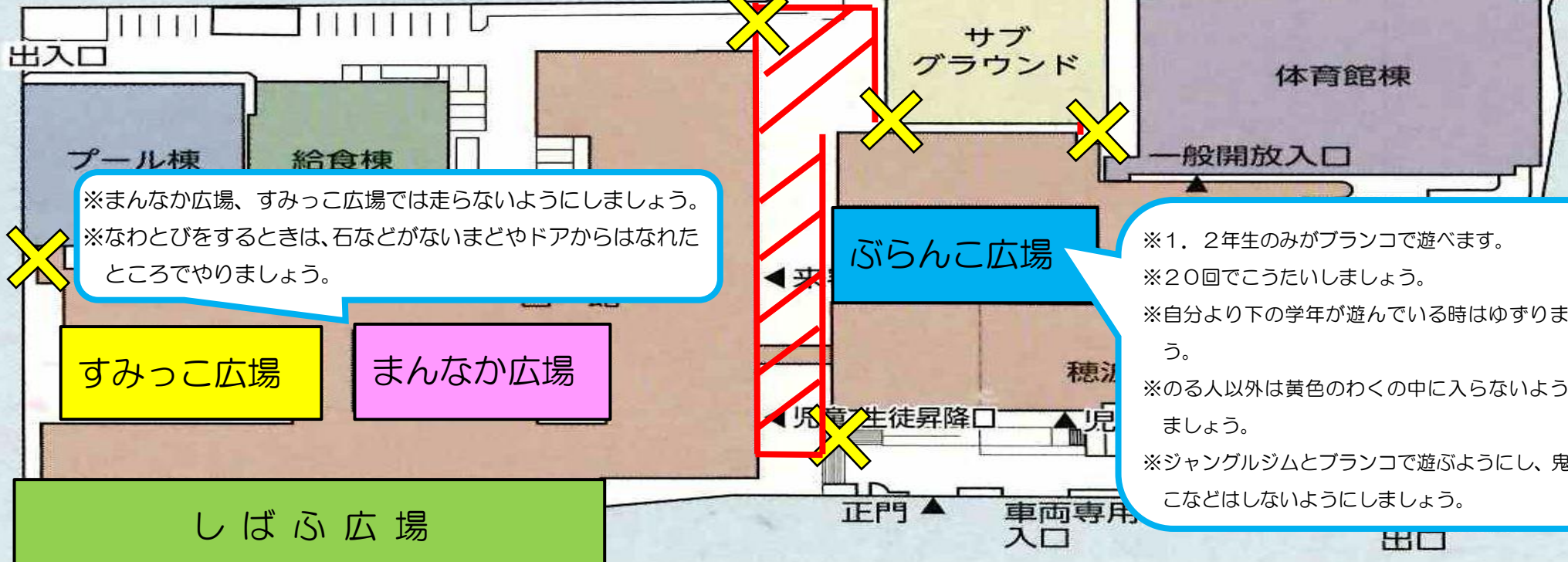
曜日	月	火	水	木	金
メイングラウンド	小学部	1・3・5年 中学部	小・中学部	2・4・6年 中学部	小学部
サブグラウンド	小学部	小学部	小学部	小学部	小学部

- 時計をしっかりと見て、時間を守って遊びましょう。
- (火)(水)(木)の昼休みは運動場の真ん中より手前側(大アリーナ側)で遊びましょう。
- **X** のところから先には入ってはいけません。
- **////** では走ったり遊んだりしてはいけません。
- 運動場の周りのフェンスには触らないようにしましょう。

- ※ボールで遊ぶ人は、メイングラウンドまで手でもって行きましょう。(パスをしたりついたりしてきてはいけません。)
- ※ドッジボールを足で踏まないようにしましょう。
- ※ほかの学年のことを考えて、周りを見ながらけがのないように楽しく遊びましょう。
- ※掲揚台(旗のある場所)にはのらないようにしましょう。



※(火)(水)(木)は手前側(大アリーナ側)で遊びましょう。



- ※まんなか広場、すみっこ広場では走らないようにしましょう。
- ※なわとびをするときは、石などが無いまどやドアからはなれたところでやりましょう。

- ※1、2年生のみがブランコで遊べます。
- ※20回でこたいたいしましょう。
- ※自分より下の学年が遊んでいる時はゆずりましょう。
- ※のる人以外は黄色のわくの中に入らないようにしましょう。
- ※ジャングルジムとブランコで遊ぶようにし、鬼ごっこなどはしないようにしましょう。

## 「飯塚市立小中一貫校穂波東校」研究紀要関連資料の紹介

ページ数の関係から、本紀要の巻末資料として掲載できなかった関連資料を本校 HP にアップしています。

以下のQRコードを読み取るか、「穂波東校」で検索され、本校 HP の「研究→全国サミット」から閲覧できます（ダウンロード可）。

### 関連資料 1

#### 「小中一貫教育のすゝめ」

「小中一貫教育のすゝめ」は、本校に新たに着任した職員等に向け、本校の小中一貫教育の内容等を分かりやすく伝えることを目的に作成された小冊子です。

この小冊子は、本校が小中一貫教育をどのように捉えているかをまとめた「理論編」と、実際にどのような教育活動を展開しているかをまとめた「実践編」から構成されています。



小冊子「小中一貫教育のすゝめ」

### 関連資料 2

#### 「穂波東校小中一貫教育だより」

「穂波小中一貫教育だより」は、本校の小中一貫教育に関わる様々な情報をリアルタイムで本校職員等に周知することを目的に作成された「だより」です。

この「だより」は、開校時より発行され、現在までに52号発行されています。この「だより」を通して、本校における小中一貫校づくりの歩みをお伝えできるものと思います。



本校の「小中一貫教育関連資料  
掲示コーナー」に貼られた「だより」

「小中一貫教育のすゝめ」  
QRコード



「穂波東校小中一貫教育だより」  
QRコード



## 研究同人(教職員一覧)

(令和2年度)

穂波東校小学部	穂波東校中学部
菌田 美穂	山本 健志
古野 久美子	犬丸 郷司
末吉 寛行	切通 智行
淵上 スミ子	芝田 博志
中山 雅子	松永 登代子
田中 ひとみ	松尾 聖奈子
田代 祐子	内田 直美
大和 由紀子	坂田 憲司
藤野 巳穂	藤田 忠光
高橋 真由美	伊藤 充
真角 俊次	高宮 和美
有吉 昌二	菅原 順子
平田 康夫	仲上 佳男
山下 宗之	大里 厚子
大久保 邦代	山路 哲矢
角銅 晶子	清水 さおり
松尾 歩	平尾 智美
辻 容子	阿部 和子
長谷 恵美	花田 典子
中嶋 雄三	都築 正悟
當房 真奈美	進登 大史
岩倉 麻子	笛田 美加
中村 友紀	安永 宗孝
秋吉 光輝	長主 守央
本多 優	江藤 雅彦
右田 昇一	瓜生 真弓
梶原 直人	和田 泰三
曾根 理史	出口 法
後藤 鈴奈	土居 千草
原 朋華	中垣 知子
青山 由紀子	森方 麻美
船越 明華	堀口 聖人
竹中 真子	
山本 名子	
内藤 智子	
實藤 観月	
淵上 加寿子	
田中 彩芳	
牛島 祥子	
草野 稔博	
安永 恵理	
秋田 美恵子	
真隅 公美	
大庭 宏美	
矢矧 貴弓	

(令和3年度)

穂波東校小学部	穂波東校中学部
菌田 美穂	山本 健志
古野 久美子	犬丸 郷司
末吉 寛行	高峰 寛
淵上 スミ子	松永 登代子
田中 ひとみ	松尾 聖奈子
大和 由紀子	内田 直美
藤野 巳穂	坂田 憲司
高橋 真由美	藤田 忠光
真角 俊次	切通 智行
有吉 昌二	伊藤 充
平田 康夫	高宮 和美
山下 宗之	菅原 順子
大久保 邦代	仲上 佳男
角銅 晶子	山路 哲矢
松尾 歩	清水 さおり
辻 容子	平尾 智美
長谷 恵美	阿部 和子
中嶋 雄三	都築 正悟
當房 真奈美	進登 大史
岩倉 麻子	桑岡 有吏恵
近藤 友紀	井上 沙紀
秋吉 光輝	笛田 美加
右田 昇一	瓜生 真弓
梶原 直人	古賀 志保里
曾根 理史	牛島 祥子
中村 公香	出口 法
後藤 鈴奈	土居 千草
石田 翔太	中垣 知子
原 朋華	宅間 弘
福田 ひとみ	森方 麻美
青山 由紀子	原田 明彦
船越 明華	花田 典子
中山 雅子	
加来 智子	
淵上 加寿子	
瀧上 彩芳	
野元 慎之助	
草野 稔博	
安永 恵理	
秋田 美恵子	
真隅 公美	
大庭 宏美	
壁矢 博子	
七町 辰江	
立石 裕美	

(令和4年度)

穂波東校小学部	穂波東校中学部
菌田 美穂	山本 健志
古野 久美子	犬丸 郷司
篠崎 寛之	高峰 寛
淵上 スミ子	松永 登代子
田中 ひとみ	松尾 聖奈子
大和 由紀子	坂田 憲司
藤野 巳穂	藤田 忠光
高橋 真由美	切通 智行
真角 俊次	伊藤 充
有吉 昌二	高宮 和美
平田 康夫	菅原 順子
山下 宗之	法橋 美貴
大久保 邦代	清水 さおり
角銅 晶子	平尾 智美
松尾 歩	阿部 和子
長谷 恵美	長濱 亮太
中嶋 雄三	河野 睦
當房 真奈美	都築 正悟
岩倉 麻子	井上 沙紀
近藤 友紀	桑岡 有吏恵
秋吉 光輝	進登 大史
右田 昇一	川口 拓朗
梶原 直人	笛田 美加
曾根 理史	山下 雅人
中村 公香	瓜生 真弓
後藤 鈴奈	森方 麻美
石田 翔太	牛島 祥子
原 朋華	出口 法
篠崎 克彦	土居 千草
青山 由紀子	逢坂 英蔵
船越 明華	毛利 康子
川村 史穂里	古賀 志保里
上原 睦美	花田 典子
野元 慎之助	真隅 公美
中山 雅子	
加来 智子	
淵上 加寿子	
瀧上 彩芳	
野上 佳代	
三原 美幸	
草野 稔博	
永井 みづき	
秋田 美恵子	
大庭 宏美	
壁矢 博子	
七町 辰江	
松崎 静江	
西 静香	
立石 裕美	

## おわりに

本日ここに、「第17回小中一貫教育全国サミットin飯塚」が開催され、本校の開校から5年間の取組を発信し、会員の皆様をはじめ全国からの出席者の方々から多くのご意見とご示唆をいただく機会を得ましたことに深く感謝申し上げます。

本校では、平成30年度の小中一貫校開校以来、飯塚市内初の一貫校穎田校をはじめ、小中一貫教育先進校の取組を参考にしつつ、「無理なく、無駄なく、効果がある取組を」を合言葉に、開校当初予定していた取組についても随時見直しを図りながら進めてきました。3年目以降はコロナウイルス感染症の感染拡大の心配もあり、取組のいくつかについては、実践の歩みを止めざるを得ないものもありました。しかし一方で、それでもできる方法を、より効果的な方法をと知恵を出し合い実施してきた取組、新たに生まれた取組もあり、この間も小中一貫教育を前進させてまいりました。

小中一貫教育の重要課題に対する取組の中心を学力向上とし、その核は日々の授業であると考え、その実践のベースを「穂波東校授業スタンダード」という形にして、1年生から9年生まで各教室・各教科で授業改善に取り組んでおります。本日は、全ての学級での児童生徒の学びの姿をご参観いただきました。まだまだ、拙い実践であったかとは思いますが、今後も、9年間を通して児童生徒が学びの主体者となる授業実践を行っていくことが、本校重要課題への方策だという共通理解のもと、小・中教職員で共にさらなる取組を進めていきたいと考えております。

研究の推進にあたり、「子ども主体の授業とは」「子どもの姿に学ぶ授業改革を」と熱いご指導で私たちを導き、本日も、貴重な指導・助言をいただきました福岡教育大学教授 鈴木邦治先生には、心より感謝申し上げます。

また、施設一体型であることのメリットを生かす可能性はまだまだ多く残されていると思います。本日もご参観の皆様から忌憚のないご意見をいただき、本校小中一貫教育の取組を前進させていきたいと考えております。

結びに、このような機会を与えていただきました小中一貫教育全国連絡協議会、飯塚市教育委員会をはじめ、関係機関の皆様のご指導・ご支援に厚く御礼申し上げます。また、ご多用な中、本日もご参観いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

令和4年11月4日

飯塚市立小中一貫校穂波東校  
小学部 校長 藺田 美穂

